

鴻 臚 館 跡 10

— 平成10年度発掘調査概要報告 —

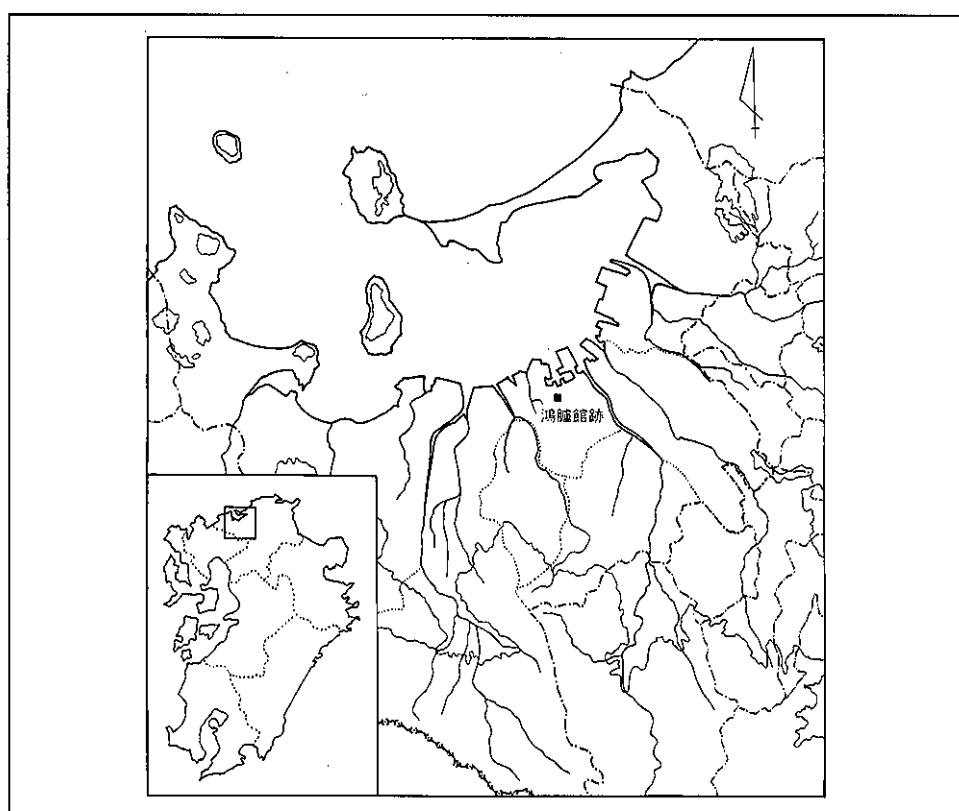
福岡市埋蔵文化財調査報告書第620集

1 9 9 9

福岡市教育委員会

鴻 臚 館 跡 10

平成10年度発掘調査概要報告



9807 (FUE-41)

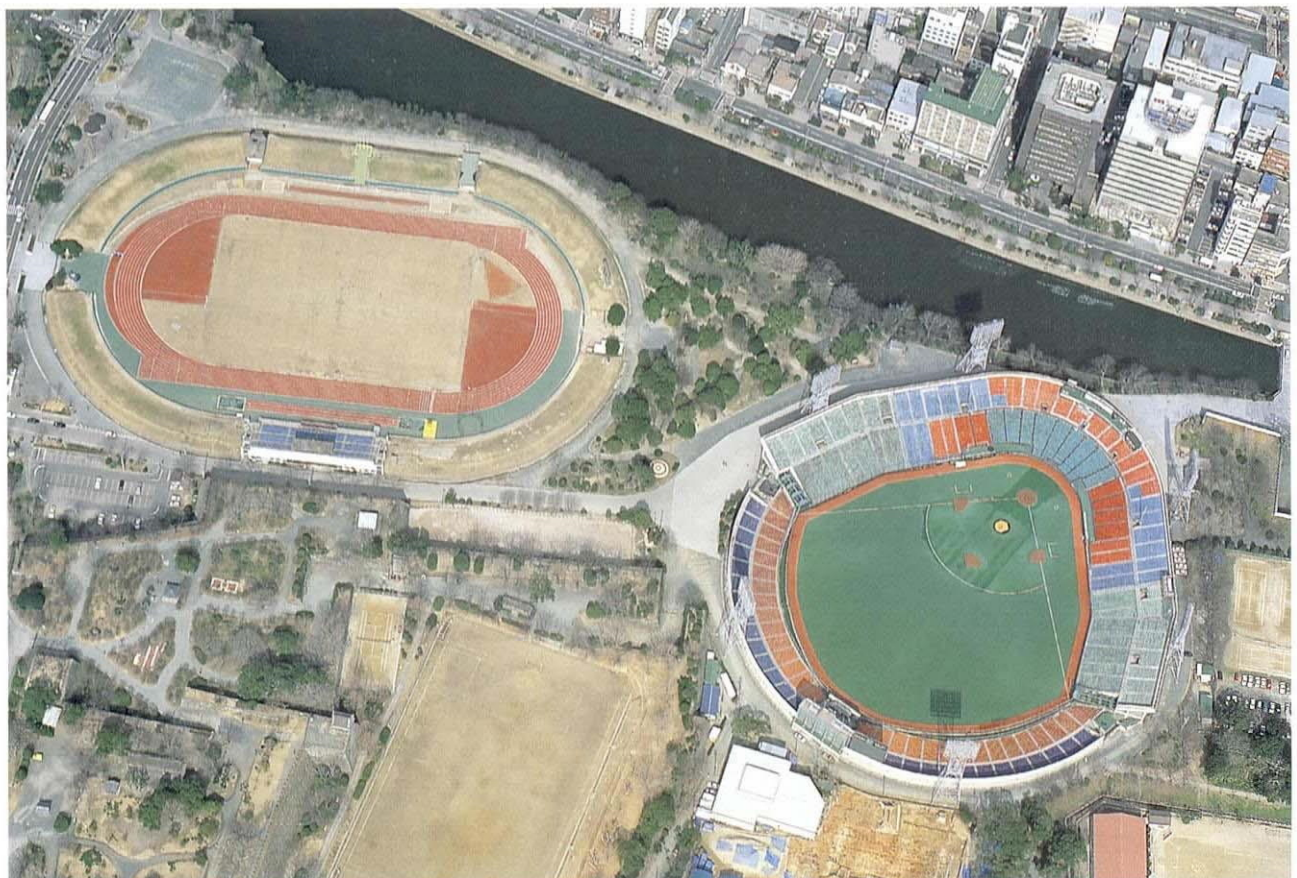
9831 (FUE-42)

平成11年

福岡市教育委員会



(1) 鴻臚館跡周辺景観（南から）



(2) 平和台野球場の旧状（南から）



(1) 平和台野球場解体後の仮整備状況（北から）



(2) 平和台野球場跡地試掘調査状況（北から）

序

鴻臚館跡の発掘調査は、昭和62年末、福岡市中央区の国史跡福岡城跡内にある平和台野球場外野席スタンド改修工事の際の発見を契機として、翌63年から本格的に開始いたしました。

本市では、鴻臚館跡の全容解明を目的として、昭和63年度に鴻臚館跡調査研究指導委員会を設置し、そのご指導の下で、発掘調査と関連資料の収集等を継続して推進しております。

平成10年度には平和台野球場の解体撤去工事が完了し、平成11年度からいよいよ平和台野球場跡地の発掘調査を開始する運びとなっております。

本書は、平成10年度に実施した、平和台野球場の解体撤去工事にともなう立会調査および解体完了後に実施した試掘調査の概要報告書です。

本報告書が埋蔵文化財へのご理解とご認識の一助となれば幸いです。

立会調査、試掘調査から本報告書の完成にいたるまで、ご理解とご協力をいただいた大蔵省福岡財務支局、福岡市都市整備局・建築局、また、温かくご指導いただいた鴻臚館跡調査研究指導委員会の各先生方、文化庁、福岡県教育庁の皆様方には深甚なる謝意を表します。

平成11年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町 田 英 俊

例 言

1. 本書は、平成10年度に実施した平和台野球場解体工事にともなう立会調査および球場解体後に実施した試掘調査の概要報告書である。
2. 本書で用いた地図は、Fig. 1に国土地理院発行五万分の1地形図（NI-52-10-11/福岡11号）福岡を、Fig. 2に福岡市都市計画図、NO60・61・71・72を使用した。
3. 本書で用いた方位は、平面直角座標系第Ⅱ座標系であり、磁北方位は西偏 $6^{\circ}40'$ である。
4. 本書の執筆・編集は塩屋勝利と協議の上、池崎譲二が担当した。
5. 編集に際しては、整理調査員 宮園登美枝・黄建秋、整理作業員 寺村チカ子、山口玲子、堀一恵、金石邦子の補助を受けた。

本文目次

第1章 序 説	1
1) 調査計画	1
2) 既往の調査	3
3) 平成10年度調査事業概要	6
第2章 調査の記録	7
1) 平和台野球場解体工事にとまなう 立会調査・試掘調査報告	7
1. 立会調査概要	7
2. 試掘調査第一期概要	10
3. 試掘調査第二期概要	11
2) 立会調査・試掘調査のまとめ	16

挿 図 目 次

Fig. 1 鴻臚館跡と周辺遺跡分布図 (1/50000)	2
Fig. 2 福岡城跡内発掘調査位置図 (1/5000)	4
Fig. 3 指導委員会現地視察 (第二期試掘調査)	6
Fig. 4 平和台競技場内ボーリング調査 (南から)	6
Fig. 5 平和台野球場解体順序図	8
Fig. 6 電気等切り替えにとまなう試掘 第3トレンチ平面図 (1/200)	9
Fig. 7 内野スタンド断面図	9
Fig. 8 平成10年度試掘調査トレンチ設定図 (1/1500)	13
Fig. 9 第一期試掘調査トレンチ平面図・土層図 (1/300)	14
Fig. 10 第二期試掘調査トレンチ平面図・土層図 (1/300)	15
Fig. 11 福岡城と平和台野球場の位置関係図	17
Fig. 12 大音屋敷長屋門と革櫓、炭櫓 (明治時代初め)	17
Fig. 13 平和台野球場跡地内戦災焦土層分布図 (1/750)	18
Fig. 14 平和台野球場跡地内岩盤検出状況図 (1/750)	19
Fig. 15 既往調査区遺構と瓦を多く含む埋立土との位置関係 (1/900)	20
Fig. 16 鴻臚館および平和台野球場跡地南北断面模式図 (1/1200)	21

図版目次

巻頭図版 1	(1) 鴻臚館跡周辺景観 (南から)	(2) 平和台野球場の旧状 (南から)
巻頭図版 2	(1) 平和台野球場解体後の仮整備状況 (北から)	(2) 平和台野球場跡地試掘調査状況 (北から)
PL. 1	(1) 電気等切り替えにともなうトレンチ調査風景 トレンチ 2 (東から)	
	(2) トレンチ 1、2 間礎石出土状況	(3) トレンチ 3 全景 (西から)
	(4) トレンチ 3 柱穴検出状況 (北から)	(5) トレンチ 9 浄化槽検出状況 (北から)
PL. 2	(1) 内野席撤去状況	(2) 内野スタンド盛土撤去状況
	(3) 内野スタンド構造物撤去状況	(4) 内野スタンド地下構造物撤去状況
	(5) スコアボード撤去状況	(6) 外野席撤去状況
PL. 3	(1) 外野フェンス撤去状況	(2) 外野席撤去後の状況
	(3) グランド基礎撤去状況	(4) グランド地下埋設管撤去状況
	(5) 照明塔基礎撤去状況	(6) 浄化槽撤去状況
PL. 4	(1) 平和台野球場跡第一期試掘調査全景 (北から)	(2) 北トレンチ 1 全景 (南から)
	(3) 北トレンチ 2 全景 (南から)	(4) 北トレンチ 2 土層断面 (南東から)
	(5) 北トレンチ 2 瓦溜まり (西から)	
PL. 5	(1) 北トレンチ 2 北端土層断面 (北から)	(2) 北トレンチ 3 全景 (南から)
	(3) 北トレンチ 3 土層断面 (南東から)	(4) 北トレンチ 4 全景 (北から)
	(5) 北トレンチ 4 柱穴検出状況 (北から)	
PL. 6	(1) 平和台野球場撤去後仮整備状況遠景 (北から)	(2) 平和台野球場撤去後仮整備状況近景 (北から)
	(3) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景 (東から)	(4) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景 (北から)
	(5) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景 (空中写真)	
PL. 7	(1) 南トレンチ 1 全景 (北から)	(2) 南トレンチ 2 全景 (北から)
	(3) 南トレンチ 3 全景 (北から)	(4) 南トレンチ 2 瓦出土状況 (東から)
	(5) 南トレンチ 2 岩盤検出状況 (北西から)	(6) 南トレンチ 3 瓦出土状況 (東から)
	(7) 南トレンチ 3 瓦出土状況 (西から)	
PL. 8	(1) 南トレンチ 4 全景 (北から)	(2) 南トレンチ 4 瓦出土状況 (南東から)
	(3) 南トレンチ 4 瓦出土状況 (東から)	(4) 南トレンチ 5 全景 (北から)
	(5) 南トレンチ 5 瓦出土状況 (東から)	(6) 南トレンチ 5 埋土状況 (東から)
PL. 9	(1) 南トレンチ 5 礎石検出状況 (東から)	(2) 南トレンチ 6 全景 (北から)
	(3) 南トレンチ 6 江戸時代溝検出状況 (北東から)	(4) 南トレンチ 6 江戸時代砂層堆積状況 (東から)
	(5) 南トレンチ 6 連隊関係地下遺構 (東から)	(6) 南トレンチ 7 スタンド盛土状況 (北から)

表目次

Tab. 1	鴻臚館跡調査中期計画表	1
Tab. 2	福岡城跡・鴻臚館関係調査一覧	3
Tab. 3	福岡城跡・鴻臚館関係調査報告書・文献一覧	5
Tab. 4	平和台野球場解体工事工程と立会調査・試掘調査フローチャート	7

第1章 序 説

1. 調査計画

鴻臚館跡の発掘調査は、昭和62年末の平和台野球場外野席における関連遺構と遺物の発見を契機とする。昭和63年度には鴻臚館跡調査研究指導委員会が組織され、全容解明のための本格的な発掘調査を開始した。発掘調査は下表の「鴻臚館跡調査中期計画」の下で実施している。

中期計画は、鴻臚館跡推定地が国史跡福岡城跡内に立地しているために、文化庁をはじめとする関係各機関と協議の上、「舞鶴城址将来構想」の下で進められている城内各施設の移転事業計画を参考にしながら策定し、平成5年度第2回指導委員会です承を受けた。Tab. 1にその概要を示した。

第Ⅰ期調査は平和台野球場外周南側部分を対象に、昭和63年度～平成4年度にかけて調査を実施。この地区では、奈良時代から平安時代までの建物遺構群と中国産陶磁器をはじめとする大量の遺物が出土し、鴻臚館跡の可能性が高いことが確認された。またこの地区は、5年度から7年度にかけて、平和台野球場撤去後の本格的整備までの当面の仮整備という位置づけで第Ⅰ期整備を実施した。

第Ⅱ期調査は、5年度と6年度に福岡城三の丸西郭にある「舞鶴公園西広場」を調査対象地として、福岡城跡西辺部における鴻臚館関連遺構と遺物の有無確認、および旧地形復元を目的に調査を実施した。その結果、福岡城西北城における築城当時の地業の状況と当時の海岸線の復元が可能となった。

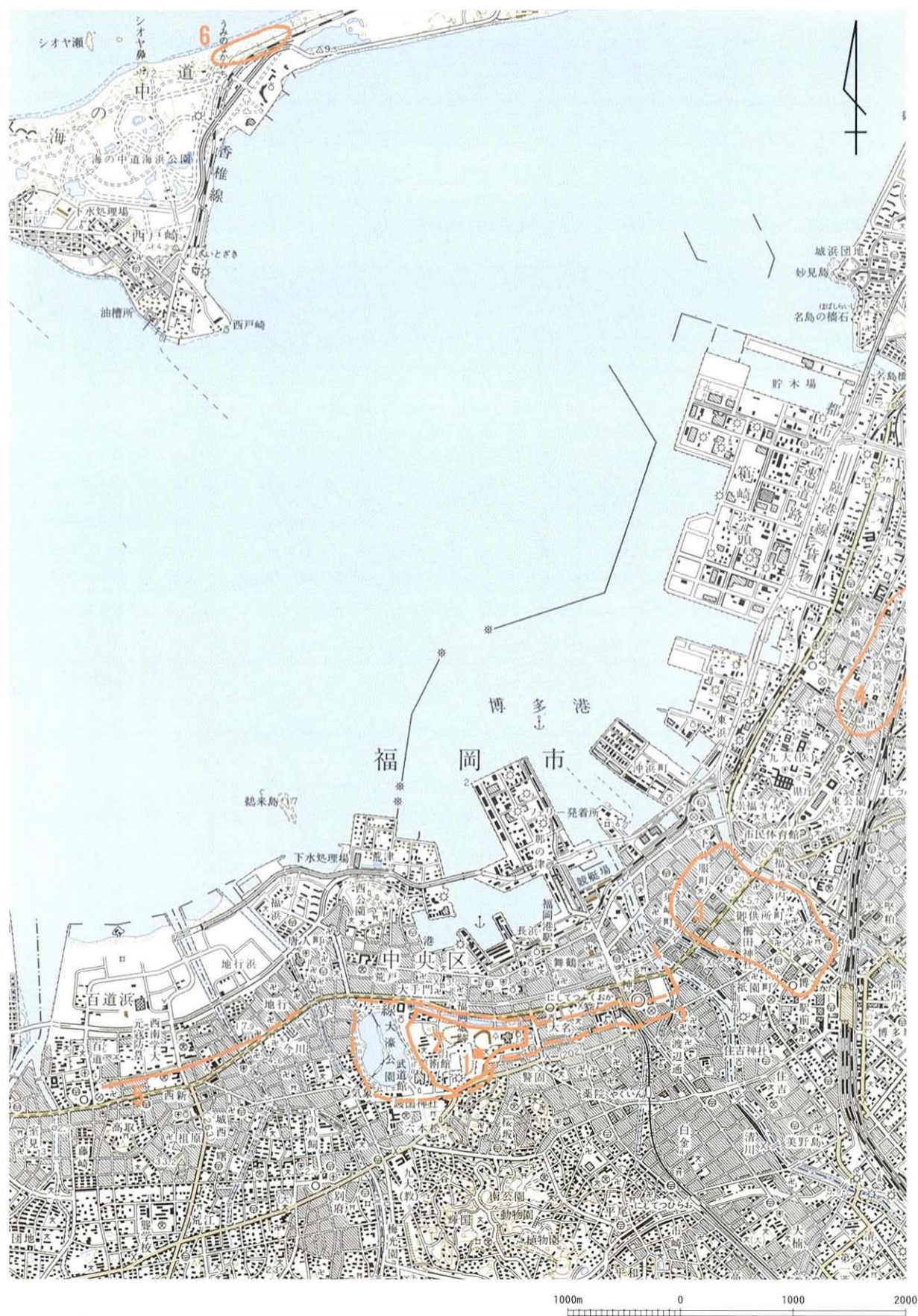
第Ⅲ期調査は、平和台野球場部分の発掘調査が可能となる時期までの調査である。10年度はこの第Ⅲ期調査の最終年次にあたる。なお、野球場は平成9年11月末日をもって閉鎖し、平成10年度中に解体撤去の方針が本市当局から示された。これを受けて、教育委員会では、鴻臚館跡調査研究指導委員会に諮り、平成10年度に解体工事に伴う立会調査と試掘調査を実施することとした。したがって、第Ⅲ期調査の計画期間は10年度までとなり、平成11年度から第Ⅳ期調査に着手することとなった。

第Ⅳ・Ⅴ期調査は平和台野球場跡地部分の本格的調査で、期間は9ヶ年を見込んでいる。またこの間の調査結果を勘案しつつ、整備に向けての基本構想等の検討を行う計画である。

第Ⅵ期調査は、鴻臚館跡の全容解明にとって必要と思われる地点について調査を行うもので、第Ⅳ期調査以降の成果およびその進捗状況をみながら、調査地点等は検討して行く予定である。

Tab. 1 鴻臚館跡調査中期計画表（平成10年12月15日現在） ※網かけ部分は本報告の対象とする事業年度

		対象地区	昭62～平4	平5～6年	7年	8年	9年	10年	11～14年	15～19年	20～25年	備 考
発掘調査	緊急調査	平和台野球場外野席	—									鴻臚館の発見
	第Ⅰ期調査	旧テニスコート	—									指導委員会の設置 本格的調査の開始 第Ⅰ期整備対象地
	第Ⅱ期調査	西広場		—								範囲確認調査 旧地形の復元
	第Ⅲ期調査	野球場外周南側土塁他 野球場跡地										範囲確認調査 野球場解体立会調査 野球場跡地試掘調査
	第Ⅳ期調査	野球場南区										平成11年から調査着手 (4カ年計画)
	第Ⅴ期調査	野球場北区										平成11年から調査着手 (5カ年計画) 予定
	第Ⅵ期調査	高等裁判所等 重要地点										
整備	第Ⅰ期整備	旧テニスコート		—								平成7年8月10日完成
	第Ⅱ期整備	野球場跡地										第Ⅳ期調査の結果を 検討のうえ計画



- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 鴻臚館跡 | 4. 箱崎遺跡群 |
| 2. 福岡城跡（国指定史跡） | 5. 元寇防塁跡（国指定史跡） |
| 3. 博多遺跡群 | 6. 海の中道遺跡 |

Fig. 1 鴻臚館跡と周辺遺跡分布図（1/50000）

2. 既往の調査

福岡城跡の調査は、史跡指定範囲の内外において、平成9年度末までに42地点について調査が実施されている。そのうち鴻臚館跡発掘調査事業として実施されたのは14次20地点である。Tab. 2にその内訳を示した。なお文献番号は参考文献一覧に対応する。なお、本年度の調査は福岡城跡関係第41、42次調査にあたり、鴻臚館跡関連調査では第15、16次調査となる。

Tab. 2 福岡城跡・鴻臚館関係調査一覧（平成10年度現在）

調査番号	次数	地 区	史跡内外区分	調査原因	調査面積	調査期間	調査担当者	文 献	備 考
――	A	三の丸中央部	史跡内	テニスコート建設		510800～3日間	九州文化総合研究所	1・7・11	鴻臚館1次
――	B		史跡内	国病院建設		590626～590702	文部省、文化財保護委員会	1	
6301	1	三の丸東郭	史跡内	裁判所建設	596	631007～631105 640327～640331	福岡県教育委員会	2	鴻臚館2次
7605	2	内堀内壁	史跡外	地下鉄建設	14,900	761201～771008	折尾学、池崎譲二 浜石哲也、山崎龍雄	4	
7728	3	薬院新川	史跡外	地下鉄建設	500	780301～780630	折尾学、池崎譲二	4	
7948	4	御鷹屋敷跡	史跡内	史跡整備	2,200	790719～790811	飛高憲雄、力武卓治	3・8	
8134	5	赤坂門北側内堀	史跡外	ビル建設	70	820317～820326	田中壽夫	4	
8343	6	祈念櫓跡	史跡内	史跡整備	36	840201～840612	井沢洋一		
8449	7	肥前堀東端部	史跡外	県公園建設	580	840601～840612	福岡県教育委員会		
8533	8	肥前堀東部	史跡外	市庁舎建設	150	850700～850800	折尾学、山崎純男	9	
8747	9	三の丸中央部	史跡内	野球場改修	650	871225～880120	山崎純男、吉武学	11・14	鴻臚館3次
8829	10	三の丸中央部	史跡内	確認調査	856	880727～881210	山崎純男、吉武学	11・22	鴻臚館4次
8865	11	西～南縁土塁	史跡内	公園整備	500	880727～881210	山崎純男、吉武学	10	
8840	12	肥前堀東部	史跡外	ビル建設	650	881107～881126	柳沢一男	12	
8910	13	三の丸中央部	史跡内	確認調査	1,200	890420～891207	山崎純男、吉武学	11・22	鴻臚館5次
8950	14	肥前堀東部	史跡外	市庁舎建設	700	891011～891021	菅波正人	13	
9005	15	三の丸中央部	史跡内	確認調査	1,300	900409～910131	山崎純男、吉武学	11・22	鴻臚館6次
9065	16	月見櫓跡	史跡内	確認調査	190	910301～910331	山崎純男、吉武学	15	
9130	17	三の丸中央部	史跡内	確認調査	1,000	910501～920331	山崎純男、瀧本正志	16・22	鴻臚館7次
9146	18	時櫓跡	史跡内	確認調査	250	920301～920331	瀧本正志		
9218	19	三の丸中央部	史跡内	確認調査	1,670	920615～921030	山崎純男、瀧本正志	17	鴻臚館8次
9236	20	三の丸中央部	史跡内	確認調査	430	920910～930331	山崎純男、瀧本正志	17・22	鴻臚館9次
9262	21	花見櫓跡	史跡内	確認調査	200	930301～930331	瀧本正志		
9326	22	三の丸西部郭	史跡内	確認調査	450	930816～940228	田中壽夫、瀧本正志	19	鴻臚館10次
9345	23	追廻門南側堀	史跡外	公園整備	220.3	931213～940228	井沢洋一	18	
9353	24	本丸西縁部	史跡内	公園整備	80	931211～931221	田中壽夫、瀧本正志		
9363	25	潮見櫓跡石垣	史跡内	史跡整備	65	940301～940328	田中壽夫、瀧本正志		
9412	26	赤坂門石垣	史跡外	変電所建設	430	940525～940806	吉武学	20	
9420	27	三の丸中央部	史跡内	史跡整備	50	940606～940731	田中壽夫、瀧本正志	21	鴻臚館11次
9432	28	三の丸西部郭	史跡内	確認調査	850	940801～950320	田中壽夫、瀧本正志	21	鴻臚館11次
9451	29	三の丸東部郭	史跡内	施設建替	1024	941101～950130	力武卓治	25	
9463	30	三の丸南側土塁	史跡内	確認調査	60	950201～950217	田中壽夫、瀧本正志	21	鴻臚館11次
9537	31	三の丸中央部	史跡内	確認調査	300	951101～960329	田中壽夫	24	鴻臚館12次
9546	32	中堀	史跡外	共同住宅建設	154	951211～960329	瀧本正志	23	
9561	33	三の丸西北郭土塁	史跡内	公園整備	500	960301～960329	力武卓治		
9617	34	三の丸西南郭土塁	史跡内	駐車場整備	32	930621～960702	田中壽夫		
9620	35	三ノ丸中央郭	史跡内	確認調査	450	960704～961204	田中壽夫	24	鴻臚館13次
9630	36	肥前堀	史跡外	共同住宅建設	46	960823～960823	池田佑次		
9639	37	赤坂門外壁	史跡外	事務所建設	10	960912～960912	池田佑次		
9671	38	潮見櫓跡基壇	史跡内	史跡整備	300	970220～970318	田中壽夫		
9736	39	三ノ丸中央郭	史跡内	確認調査	204	970818～980131	田中壽夫	26	鴻臚館14次
9751	40	追廻門南側内堀内壁	史跡内	確認調査	135	971027～971107	田中壽夫		
9807	41	平和台野球場解体	史跡内	公園整備	対象 30,000 (トンチ 230)	980410～981020	田中壽夫、池崎譲二	27	鴻臚館15次
9831	42	平和台野球場跡地	史跡内	試掘調査	930	980922～990129	塩屋勝利、池崎譲二	27	鴻臚館16次

凡例・太字箇所は本報告掲載分

- ・確認調査；福岡城跡・鴻臚館跡の調査
- ・史跡整備；教育委員会所管事業に伴う調査
- ・公園整備；都市整備局所管事業に伴う調査
- ・工事名のある調査；開発に伴う緊急調査

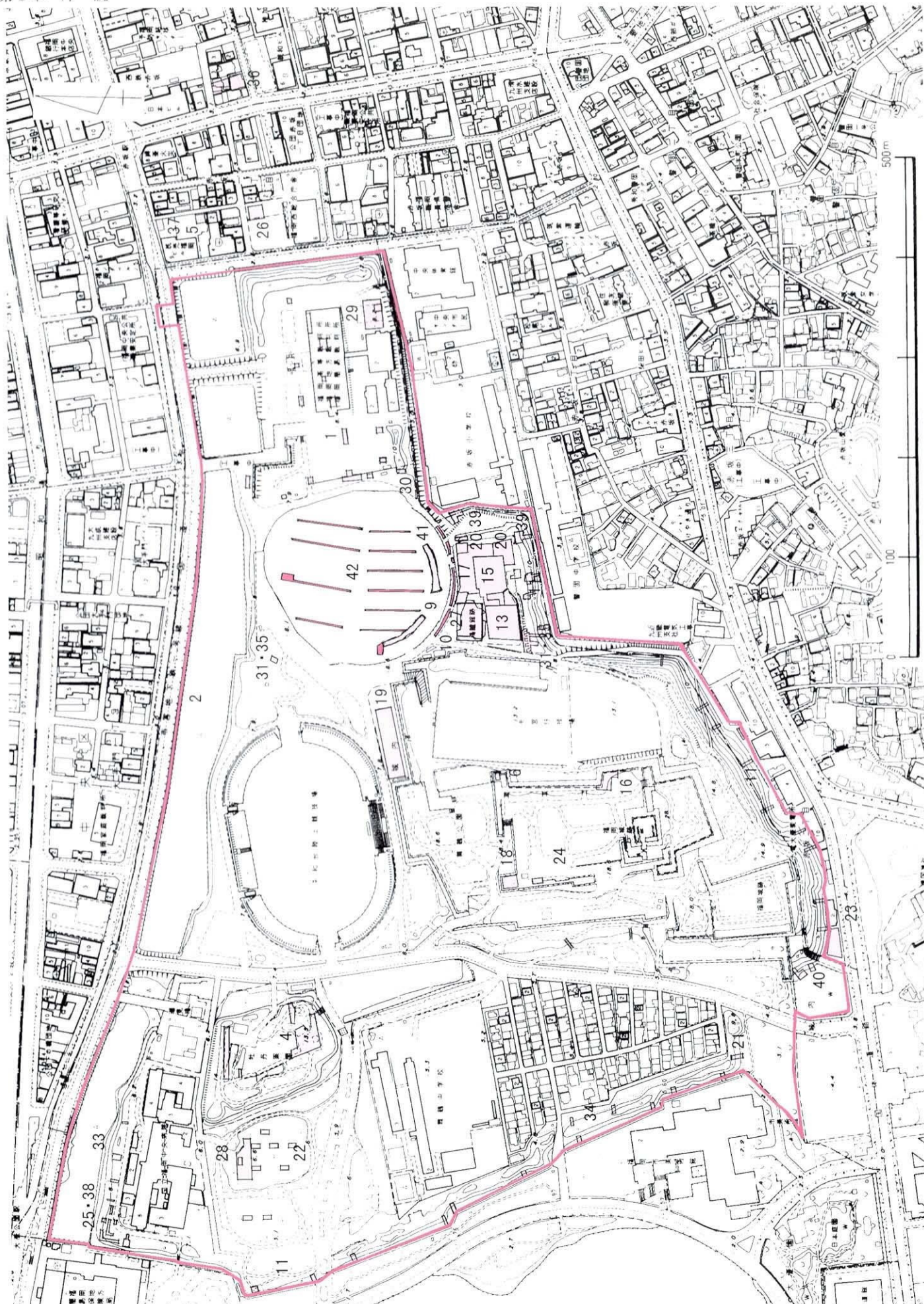


Fig. 2 福岡城跡内発掘調査位置図 (1/5000) (番号は福岡城跡内調査次数)

Tab. 3 福岡城跡・鴻臚館跡関係調査報告書・文献一覧

1	高野孤鹿	『平和台の考古史料』	1972
2	福岡県教育委員会	「史跡福岡城発掘調査概報」 福岡県文化財調査報告書第34集	1964
3	福岡市教育委員会	「筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷」 福岡市埋文調報第 59集	1980
4	福岡市教育委員会	「福岡城址ー内堀外壁石積の調査ー」 福岡市埋文調報第101集	1983
5	池崎譲二・森本朝子	『福岡市立歴史資料館所蔵の高野コレクション』 福岡市埋文調報第101集所収	1983
6	弓場知紀	『出光美術館の高野コレクション』 福岡市埋文調報第101集所収	1983
7	九州大学考古学研究室	『九州大学考古学研究室所蔵の平和台出土遺物』 福岡市埋文調報第101集所収	1983
8	福岡市教育委員会	「筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷図録編」 福岡市埋文調報第 59集	1990
9	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀」 福岡市埋文調報第131集	1986
10	福岡市教育委員会	「福岡城跡・IVー内堀内壁の調査ー」 福岡市埋文調報第237集	1991
11	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡Ⅰ 発掘調査概報」 福岡市埋文調報第270集	1991
12	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀第3次調査報告」 福岡市埋文調報第293集	1992
13	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀第4次調査報告」 福岡市埋文調報第294集	1992
14	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡Ⅱ」 福岡市埋文調報第315集	1992
15	福岡市教育委員会	「福岡城 月見櫓」 福岡市埋文調報第316集	1992
16	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡Ⅲ」 福岡市埋文調報第355集	1993
17	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡4 平成4年度発掘調査概要報告」 福岡市埋文調報第372集	1994
18	福岡市教育委員会	「福岡城跡第23次調査報告」 福岡市埋文調報第415集	1995
19	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡5 平成5年度発掘調査概報」 福岡市埋文調報第416集	1995
20	福岡市教育委員会	「福岡城赤坂門跡ー福岡城跡26次調査報告ー」 福岡市埋文調報第463集	1996
21	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡6 平成6年度発掘調査概要報告」 福岡市埋文調報第486集	1996
22	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡7 ー鴻臚館跡第Ⅰ期整備報告ー」 福岡市埋文調報第487集	1996
23	福岡市教育委員会	「福岡城跡ー福岡城中堀跡の調査ー」 福岡市埋文調報第498集	1997
24	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡8 ー平成7・8年度発掘調査概要報告ー」 福岡市埋文調報第545集	1997
25	福岡市教育委員会	「史跡福岡城跡ー東の丸の調査ー」 福岡市埋文調報第546集	1997
26	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡9 平成9年度発掘調査概要報告」 福岡市埋文調報第586集	1998
27	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡10 平成10年度発掘調査概要報告」 福岡市埋文調報第620集	1999

(福岡市埋文調報は、福岡市埋蔵文化財調査報告書の略)

3. 平成10年度調査事業概要

(1) 発掘調査の組織

1) 調査および整備指導

鴻臚館跡調査研究指導委員会（第6期1年次）

委員長	九州大学名誉教授	横山浩一	考古学			
副委員長	学習院大学教授	笹山晴生	国史学			
委員	財団法人大阪府文化財調査研究センター理事長	坪井清足	考古学	奈良国立文化財研究所長	田中 琢	考古学
	福岡大学教授	小田富士雄	考古学	九州大学教授	西谷 正	考古学
	九州大学名誉教授	川添昭二	国史学	京都学園大学教授	八木 充	国史学
	岡山大学教授	狩野 久	国史学	東京大学教授	佐藤 信	国史学
	前奈良国立文化財研究所長	鈴木嘉吉	建築史学	瑞穂短期大学教授	澤村 仁	建築史学
	九州芸術工科大学教授	杉本正美	造園学	工学院大学教授	渡辺定夫	都市工学
	京都造形芸術大学教授	中村 一	造園学			

2) 発掘調査・整備事業主体

調査主体	福岡市教育委員会	教育長	町田英俊
調査総括		文化財部長	平塚克則
庶務担当		文化財整備課長	上村忠明
		管理係長	陶山能成
		管理係	河野淳美
調査担当		文化財部課長（鴻臚館跡調査担当）	塩屋勝利
		文化財部主査（鴻臚館跡調査担当）	田中壽夫（前任）
			池崎譲二
整理調査員			宮園登美枝・黄 建秋
調査作業	家村富基郎、磯村博男、梅崎 元、大橋善平、嘉藤榮志、斎藤善弘		
	島津明男、高田甚一郎、堤 篤史、中尾 亨、仲野正徳		
整理作業	寺村チカ子、堀 一恵、金石邦子、山口玲子		

(2) 調査事業の概要

1) 鴻臚館跡調査研究指導委員会 平成10年12月8日と9日に実施。平成10年度平和台野球場解体工事に伴う立会調査、試掘調査中間報告とその検討、および、11年度以降の長期調査計画の検討を行った。

2) 平和台野球場解体工事に伴う立会調査・試掘調査鴻臚館跡関連遺構の有無確認と範囲確認を目的として、立会調査、試掘調査を実施した。限られた範囲での調査であり明確な鴻臚館遺構は確認できなかったが、柱穴、古代瓦を含む粘土層が検出されており、本調査に期したい。詳細については本報告書第2章を参照。

3) ボーリング地質調査 平和台競技場グラウンドおよびその周辺における旧地形復元を目的として5地点について、平成11年1月6日～22日に実施した。昭和63年度以来継続してきた地質調査の最終年度であり、これまでの調査成果の集成作業も行った。

4) 公開事業 鴻臚館跡展示館に、遣唐使船模型を展示した。



Fig. 3 指導委員会現地視察（第二期試掘調査）



Fig. 4 平和台競技場内ボーリング調査（南から）

第2章 調査の記録

1. 平和台野球場解体工事にともなう立会調査・試掘調査報告

平成9年度の鴻臚館跡調査研究指導委員会に示した「平和台野球場解体撤去工事計画概要書」、「平和台野球場解体工事にともなう立会調査・試掘調査計画書」に基づき立会調査を行った。

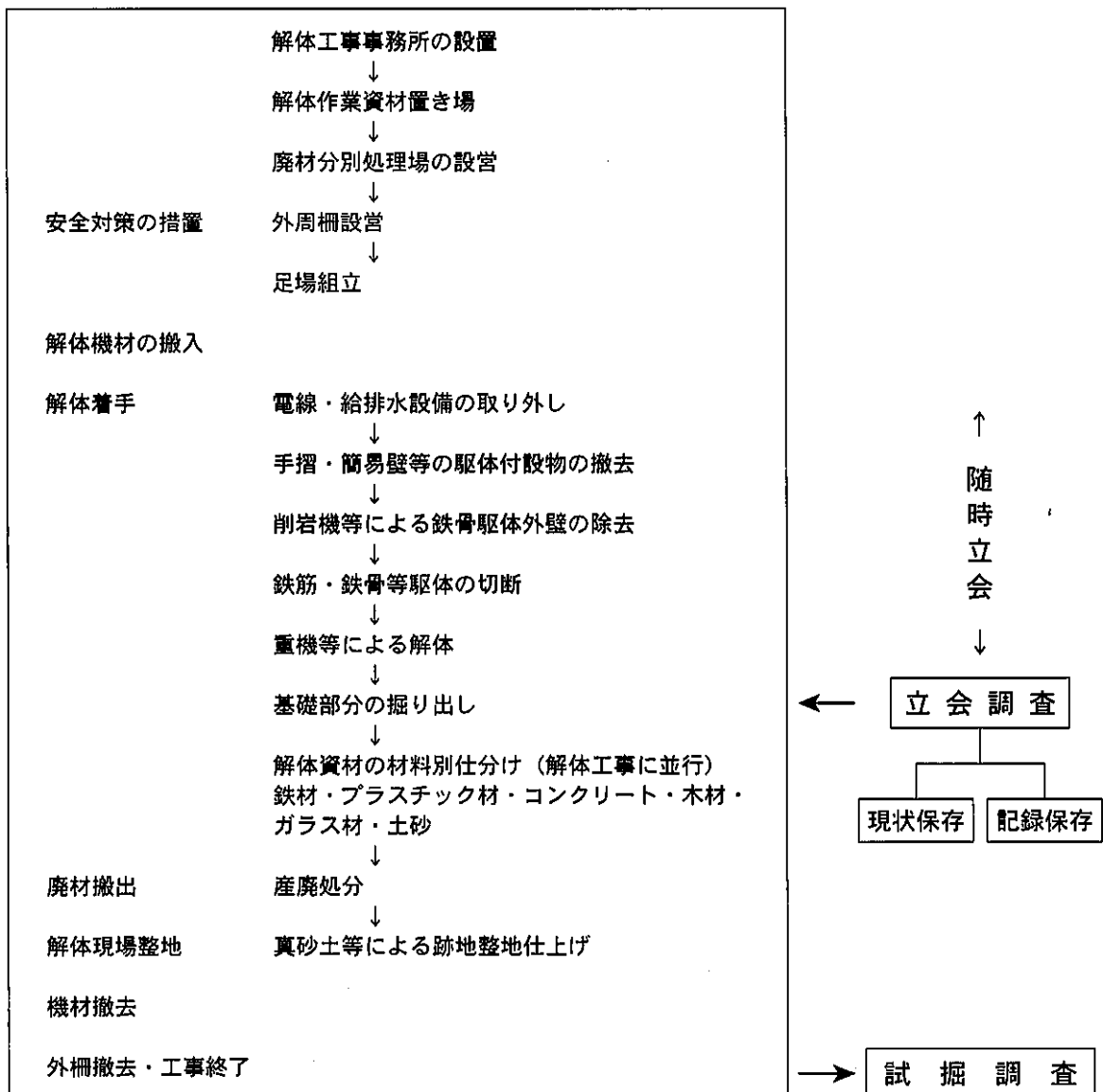
1. 立会調査概要

解体撤去工事期間 平成10年2月4日～10月20日

この間、毎週関係者で定例協議を開催し、Tab. 3のとおり各工程に応じ随時立会調査を行った。

以下、各段階での概要、所見等は次のとおりである。

Tab. 4 平和台野球場解体工事にともなう立会調査・試掘調査フローチャート



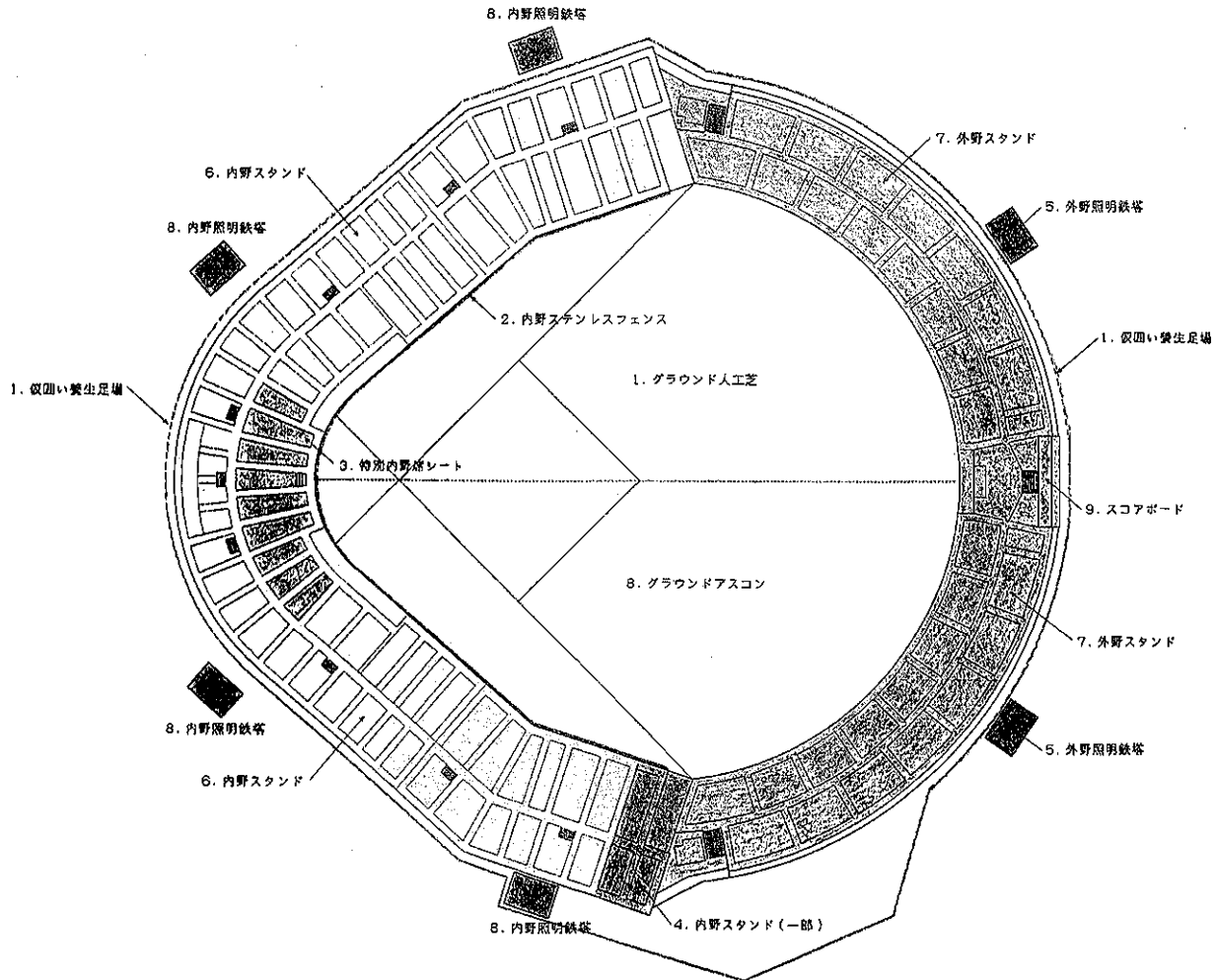


Fig. 5 平和台野球場解体順序図

(1) 電気等切り替えにともなう地下ケーブルおよびハンドホール設置工事 (Fig. 6、PL. 1)

球場西側から南側道路を経て、球場東側まで外周の約2/3、深さGL-50cmが掘削された。鴻臚館跡展示館前から高等裁判所テニスコート北側付近までの間は、遺構の存在する可能性が考えられたため、教育委員会側で掘り下げ、遺構の有無の確認を行い、以外の地点では工事掘削時立会をした。立会の結果はいずれも攪乱土の盛土で、遺構は検出されなかった。教育委員会では、長短9本のトレンチを開けたが、その内1～3トレンチで、標高7.6～7.7mで地山風化岩の削平面が見られた。特に3トレンチでは一辺1m近い柱穴状の遺構が見られた。1～2トレンチ間では、原位置は留めていないが、長径1.4m程の玄武岩扁平大礫がみられた。4～9トレンチは近現代の埋土であった。

(2) 内野スタンド撤去工事 (Fig. 7、PL. 2-(1)～(4))

基礎撤去時に立会をした。内野スタンド内側部分は、一塁、三塁側ダックアウト間に地下構造物が見られたが、以外は盛土からなり、地下への影響は少なかった。なお、この盛土は微量古代瓦等含むものの、地山風化岩はほとんど見られず、周辺の表土部分を集めて盛ったものと思われる。内野スタンド外側部分は、地下全面に深さ3m程の鉄筋コンクリートの構造物があり、遺構の残りは否定的と言わざるをえない。

(3) 外野スタンド基礎撤去工事 (PL. 2-(5)～(6)、3-(1)～(2))

外野スタンド盛土下にはこれまでの調査で遺構の存在が確認されているので、盛土上に作られた椅子の基礎、階段部分の基礎、スタンド内側擁壁のみ立会のうえ撤去した。スタンド外側擁壁については本調査時に順次撤去する予定である。

(4) グランド基礎撤去工事 (PL. 3-(3)~(4))

人工芝、アスファルト、砕石、球場関係排水管のうち遺構面に影響が考えられる後二者について立会をした。戦災焦土層のある部分については焦土層直上まで、ない部分については砕石を若干残したところまで除去し、地下への影響がないようにつとめた。球場関係排水管については、ヒューム管等については除去したが、土管等の簡易な排水管については、容易に除去できるところ以外はあえてそのまま残している。また、球場以前の構造物基礎、排水管については除去していない。グラウンド基礎撤去後、内野席盛土で全体を覆っている。

(5) 照明灯撤去工事 (PL. 3-(5))

6基の照明灯のうち、外野席側の2基については掘削による周辺遺構への影響が懸念されるため基礎の除去は行わず、地上部分のみ撤去した。内野席側4基については基礎撤去時に立会った。深さ4mもの基礎が入っており、掘り方も含めて遺構の残りは否定的である。

(6) 浄化槽撤去工事 (PL. 1-(5)、3-(6))

一塁、三塁側スタンド外に各1基の浄化槽があるが、三塁側については確認したもの、歩行者通路確保、樹木保護のためそのまま残し、一塁側のみ撤去した。深さ約3mで、掘り方も含め広範囲に影響を与えている。

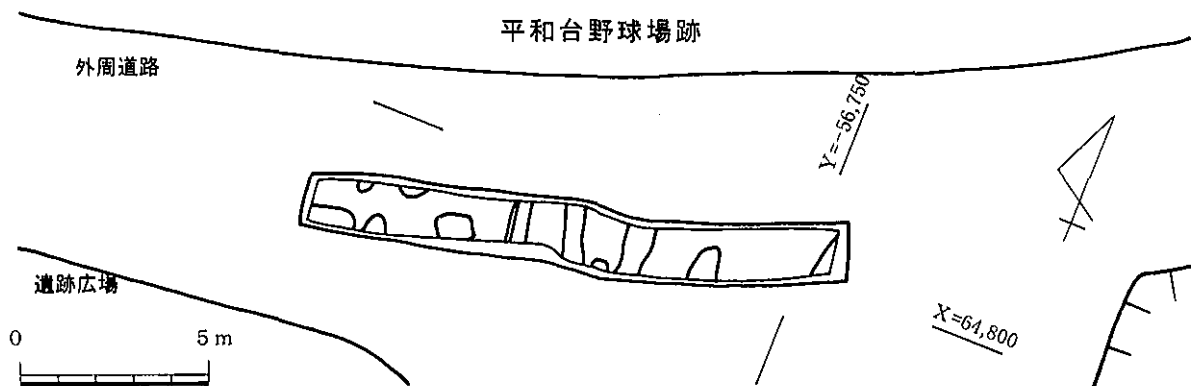


Fig. 6 電気等切り替えにともなう試掘 第3トレンチ平面図 (1/200)

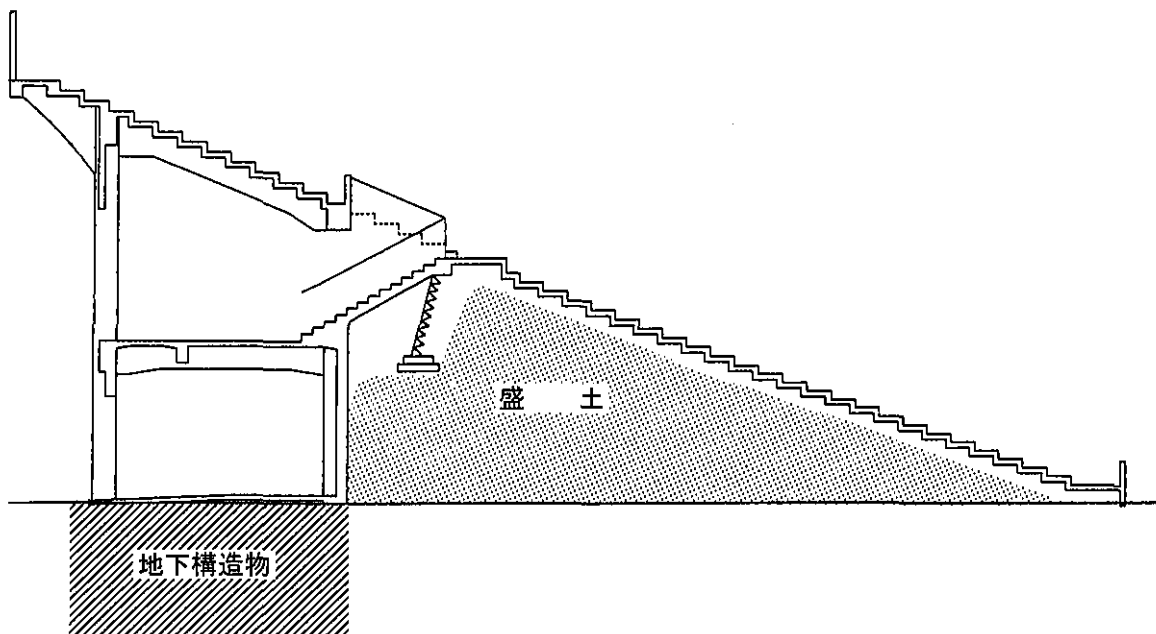


Fig. 7 内野スタンド断面図

2. 試掘調査第一期概要

平和台野球場グラウンド内の試掘調査については、当初解体工事が完了する平成10年10月20日以降着手予定であったが、球場跡地北半分の芝張り工事が、解体工事のなかで行われることとなり、急遽芝張り部分（球場跡地北半分）の試掘調査を先行して行うことにした（Fig. 9、PL. 4～5）。

(1) 試掘調査の目的

平成11年度から着手予定の平和台野球場跡地本格的発掘調査に向けて、調査計画策定のため遺構・遺物の遺存状態、分布状況を確認する。

(2) 調査対象地

人工芝、基礎アスファルト除去後のグラウンド部分および本体基礎除去後の内野席部分とした。第一期分については芝張り部分（球場跡地北半分）についてのみおこなった。

(3) 調査方法

バックホーを使用し、幅1.5mの試掘トレンチを4本、Fig. 8、PL. 4-(1)のように設定した。

掘削は解体後の整地盛土、グラウンド基礎部分、戦災焦土層までを除去し、旧福岡城の整地面を露出させ、以後トレンチ内の清掃を人力で行い、旧福岡城、鴻臚館跡の遺構・遺物の遺存状態、分布状況を確認した。各トレンチ内の検出状況、土層堆積状況を実測図、写真で記録作成したのち、埋め戻しを行い原状に復した。

なお、トレンチ名は西から1～4とし、便宜上「北」を付した。

(4) 調査期間

平成10年9月22日～30日

(5) 調査結果概要 (Fig. 9、PL. 4～5)

【北トレンチ1】 (PL. 4-(2))

46.5mのトレンチである。現地表面の標高は南端で8.35m、北端で8.11mである。南側は球場解体後の埋土を除去後すぐに標高7.5m付近で岩盤（頁岩風化岩）が現れ、球場造成時に一部削平を受けていると思われる。また、球場関係の暗渠排水管が数本みられた。トレンチ中央部から北側にかけて頁岩風化岩の埋立土がみられ、柱穴と思われる遺構がみられるが、年代は明確でない。中央部、北端部に球場コンクリート基礎による大きな攪乱がみられるが、標高7.6～7.9mの埋立土の上には戦災による焦土層が残り、この部分では球場建設による影響は少ない。

【北トレンチ2】 (PL. 4-(3)～(5)、PL. 5-(1))

72mのトレンチである。現地表面の標高は南端で8.58m、北端で8.17mである。北側部分は福岡城造成時の盛土の落ち込み方を確認するために拡張した。43m付近から北側は球場排水管的中心施設の攪乱を受け、また、内野席の一部に球場造成前のレンガ造り便所基礎があった。他の部分は数条の球場関係の排水管がみられたものの、球場解体後の埋土の下に戦災焦土層が比較的厚く残り(PL. 4-(4))、球場建設による影響をあまり受けていない。トレンチ南側に一部岩盤がみられるものの、北側部分の戦災焦土層の下は頁岩風化岩の埋立土となっている。南側岩盤の露呈部分では鴻臚館の時期の礎石抜

き跡かと思われる瓦溜まりがみられ(PL. 4-(5))、また、時期不明であるが柱穴状の遺構が若干検出された。北端部では江戸時代と思われる厚い頁岩風化岩の埋立土がみられた(PL. 5-(1))。表土および戦災焦土層除去後の標高は7.6m～7.7mである。

【北トレンチ3】 (PL. 5-(2)～(3))

72.5mのトレンチである。現地表面の標高は南端で8.58m、北端で7.97mである。58m付近から北側は球場内野席基礎、球場以前のレンガ積み基礎による大きな攪乱がある。この部分を除いて、球場解体後の埋土の下に戦災焦土層が比較的厚く残り(PL. 5-(3))、球場建設による影響をあまり受けていない。しかし、35～50mにかけて、少量の砂を含む江戸時代の大きな攪乱がみられた。7.5～15mの部分に岩盤が露呈しているが、他はいずれも頁岩風化岩の埋立土となっている。江戸時代を中心とした柱穴、土塀が若干検出されている。表土および戦災焦土層除去後の標高は7.6～7.7mである。

【北トレンチ4】 (PL. 5-(4)～(5))

68mのトレンチである。現地表面の標高は南端で8.40m、北端で7.94mである。64mから北側は球場内野席基礎の大きな攪乱を受け、また33～34m付近と37～42m付近に球場以前のレンガ積みの基礎がみられる。南側に江戸時代以降、戦災前までの時間幅が考えられる幅15m程、深さG.L. -2.5mの砂を厚く含む溝状の大きな落ち込みがみられる。この落ち込み上面には戦災焦土層がみられるが、以外は球場解体後の埋土の下に戦災焦土層はみられず、球場建設による削平の影響を受けているものと思われる。しかしながら残った頁岩風化岩の埋立土中に、2m弱の間隔でならぶ柱穴等の遺構が検出されている(PL. 5-(5))。表土および戦災焦土層除去後の標高は7.2～7.3mである。

3. 試掘調査第二期概要

平和台野球場解体撤去後、第一期に引き続き第二期試掘調査を行っている(Fig. 10、PL. 6～9)。

(1) 試掘調査の目的

平成11年度から着手予定の平和台野球場跡地本格的発掘調査に向けて、調査計画策定のため遺構・遺物の遺存状態、分布状況を確認する。

(2) 調査対象地

第二期については、第一期分を除く外野グラウンド部分についておこなう。

(3) 調査方法

調査方法については第一期と同様であるが、幅1.5mの試掘トレンチを公共座標Y軸に沿って南北に6本、また外野スタンドに遺構検出レベルの比較のために1本、Fig. 8のように設定した。なお、トレンチ名は西から1～6、外野スタンドトレンチを7とし、便宜上「南」を付した。トレンチ1、2については、鴻臚館跡調査研究指導委員会後に南側に拡張した。

(4) 調査期間

平成10年11月10日～平成11年1月29日

(5) 調査結果概要 (Fig. 10、PL. 7～10)

【南トレンチ1】 (PL. 7-(1))

Y=-56.840の軸に38mのトレンチを設定した。現地表面の標高は南端で8.7m、北端で8.5mである。北半分では埋土の直下に地山の風化頁岩岩盤が見られ、南側は風化粘土、風化岩礫の埋立土となっている。北端と南端に連隊関係施設と思われるコンクリート基礎があり、また球場関係、連隊関係の排水管が見られるが、古代、近世の特段の遺構は見られない。表土および戦災焦土層除去後の標高は南端で7.2m、北端で7.3mである。南側に15m拡張したが、外野フェンス基礎、ラッキーゾーンフェンス基礎があり、その間には球場関係の排水管が敷設されていた。南端はスタンド盛り土で、昭和62年度調査のトレンチと接する。

【南トレンチ2】 (PL. 7-(2), (4), (5))

Y=-56.820の軸に55mのトレンチを設定したが、作業用通路確保のため北側5mは未掘である。以下のトレンチも同様である。現地表面の標高は南端で8.75m、北端で8.5mである。北端部分で若干の戦災焦土層が見られたが、南側には見られない。5～14m間で埋土の直下に地山の風化頁岩岩盤が見られ、南側は風化粘土、風化岩礫の埋立土となっている。また球場関係、連隊関係の排水管が見られる。明確な古代、近世の遺構は見られないが、28～35m間に古代瓦を含む風化粘土の埋立土があり(PL. 7-(4))、この中に原位置は留めていないと思われるが、礎石かと思われる玄武岩礫が見られた。表土および戦災焦土層除去後の標高は南端で7.3m、北端で7.5mである。ここでも南側に8m延長したが、風化頁岩の岩盤が確認でき(PL. 7-(5))、その北に接して古代瓦を含む風化粘土があった。ここでも球場外野フェンス基礎、排水管が見られた。

【南トレンチ3】 (PL. 7-(3), (6), (7))

Y=-56.800の軸に66.5mのトレンチを設定した。現地表面の標高は南端で8.9m、北端で8.6mである。5～43m間に戦災焦土層が見られる。南端部に地山の風化頁岩岩盤が見られる。以外は風化粘土、風化細礫の埋立土であるが、10m付近、28～35m・54～58mの間に古代瓦を多く含む部分が見られる(PL. 7-(6), (7))。球場関係、連隊関係の排水管が見られるが、明確な古代、近世の遺構は見られない。表土及び戦災焦土層除去後の標高は南端で7.0m、北端で7.5mである。

【南トレンチ4】 (PL. 8-(1)～(3))

Y=-56.780の軸に62mのトレンチを設置した。現地表面の標高は南端で8.9m、北端で8.6mである。5～33m間に戦災焦土層が見られる。全体に風化粘土、風化細礫の埋立土で、地山岩盤は露呈していない。埋立土中、10m付近、22～27m間に古代瓦を多く含む粘土が見られる(PL. 8-(2) (3))。球場関係、連隊関係の排水管、連隊関係コンクリート基礎が見られるが、明確な古代、近世の遺構は見られない。表土および戦災焦土層除去後の標高は南端で7.3m、北端で7.6mである。

【南トレンチ5】 (PL. 8-(4)～(6), 9-(1))

Y=-56.760の軸に54mのトレンチを設置した。現地表面の標高は南端で8.8m、北端で8.8mである。5～18m間に戦災焦土層が見られる。この層直下に厚さ10cm程の砂層が見られる(PL. 8-(6))が、南トレンチ6でも同様に砂層が見られ、福岡城内の道路部分にあたるものと考えられる(Fig. 11)。これに付随する側溝と思われる溝も見られる。岩礫は露呈しておらず、全面風化礫、風化粘土の埋立土である。南半分には連隊関係の排水土管が縦横に走っている。原位置を留めているとは考えにくい、31m、34mのところで礎石と考えられる玄武岩大礫が検出されている(PL. 9-(1))。また、埋立土中、8～15m、18～26m間で古代瓦を多く含んでいる(PL. 8-(5))。若干のピットが見られるが、時期は明確でない。表土および戦災焦土層除去後の標高は南端で7.3m、北端で7.5mである。

【南トレンチ6】 (PL. 9-(2)~(5))

Y=-56.740の軸に47mのトレンチを設置した。現地表面の標高は南端で8.7m、北端で8.5mである。5~11m間に戦災焦土層がある。焦土層直下に砂層があり城内の道路と考えられる(PL. 9-(4))。全面風化礫、風化粘土の埋立土で、岩盤は見られない。南端に球場関係の排水管、擁壁基礎が見られ、33m付近に連隊の木枠組地下遺構がある。若干のピットがあるが時期は明確でない。表土および戦災焦土層除去後の標高は南端北端ともに7.3mである。

【南トレンチ7】 (PL. 9-(6))

グラウンド部分試掘トレンチの遺構検出面レベルと、スタンド部分遺構検出面レベルとのレベル差を確認するために設定した。戦災焦土除去後のレベルは8.4mで、グラウンド部分とのレベル差は1m前後あることが再確認できた。また、スタンド盛り土は古代瓦を多く含む基盤由来の風化粘土、風化礫からなり、球場建設時に外野グラウンドを削平した土であることが明らかである。

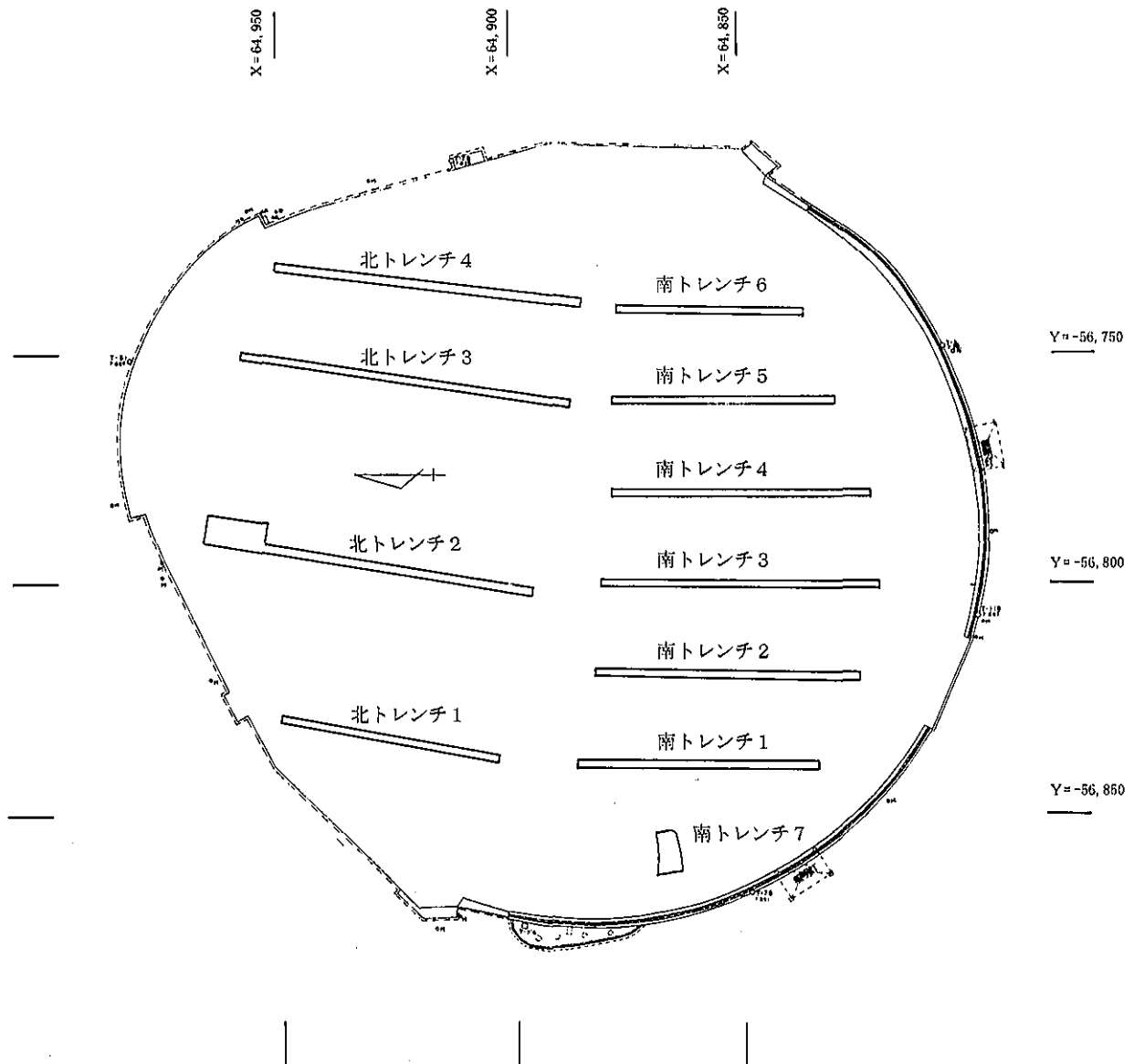


Fig. 8 平成10年度試掘調査トレンチ設定図 (1/1500)

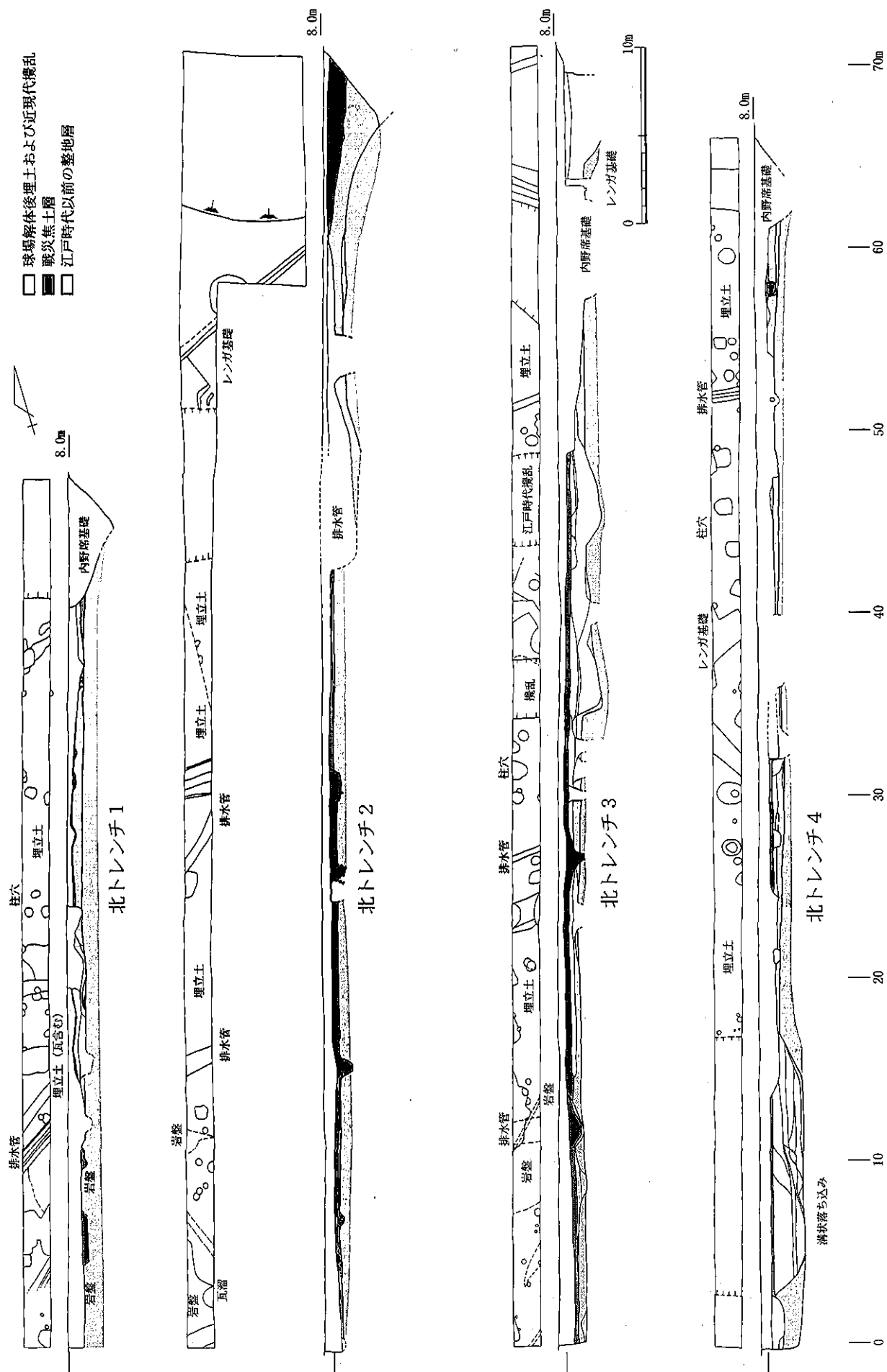


Fig. 9 第一期試掘調査トレンチ平面図・土層図 (1/300)

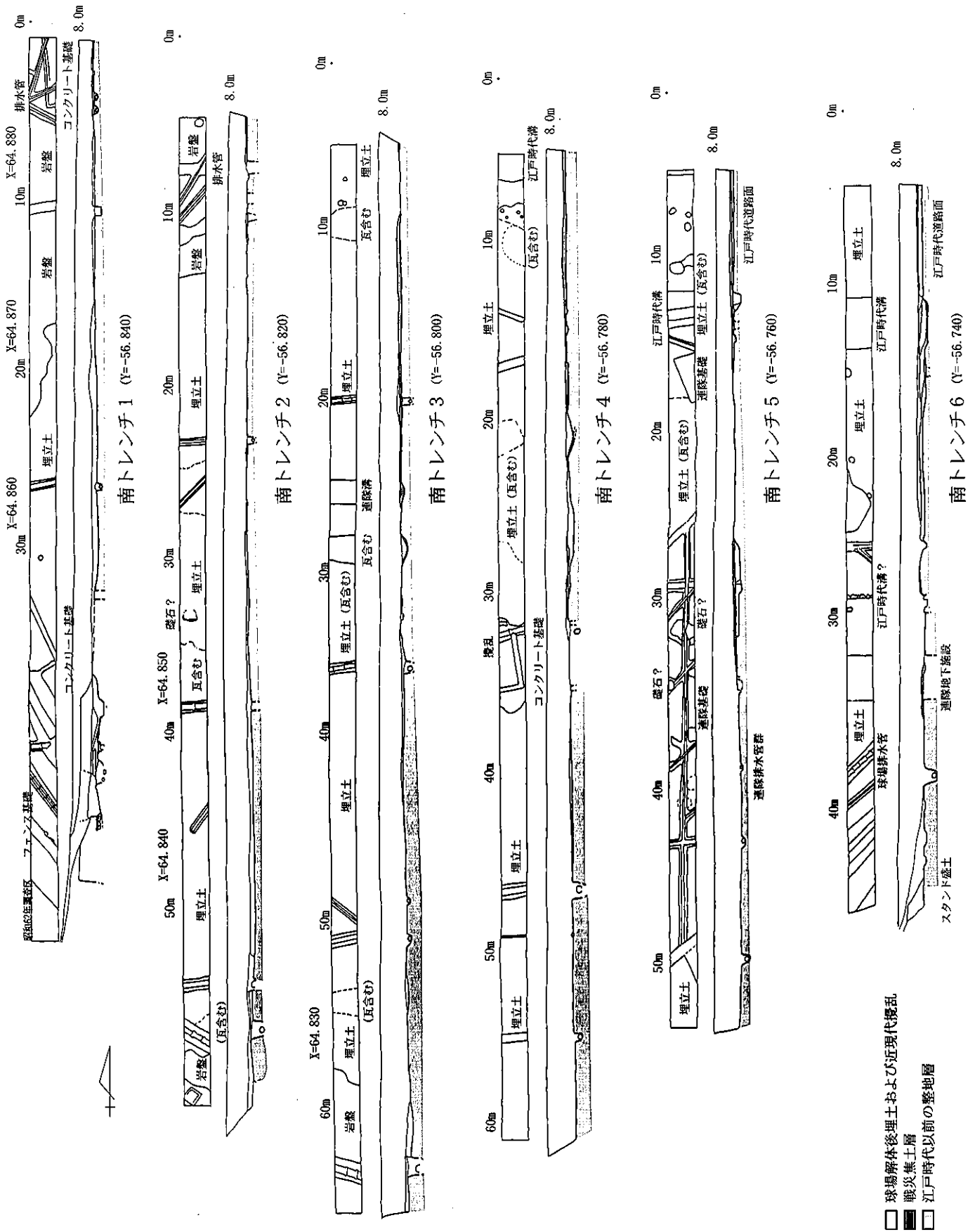


Fig.10 第二期試掘調査トレンチ平面図・土層図 (1/300)

2. 立会調査・試掘調査のまとめ

平成10年度実施した平和台野球場解体工事にともなう立会調査及び解体工事後の試掘調査で得られた知見をまとめ、平成11年度以降に実施する平和台野球場跡地本格調査の参考としたい。

平和台野球場内における鴻臚館遺跡の遺存状態については、昭和25年球場建設当時の関係者の証言等から、相当の削平を受け、甚大な影響を受けているものと考えられてきた。しかしながらその程度は、必ずしも明確ではなかった。今回の調査でおおよそ球場建設による地下への影響の度合いが把握できた。

内野スタンドの状況は、Fig. 7、PL. 2-(4)に示したとおり構造物をもつスタンド外側とスタンド内側のバックネット裏から1、3塁側ダッグアウトまでは、地下に深い構造物が造られており、鴻臚館、及び福岡城の遺構の遺存する可能性は少ない。それ以外のスタンドのグラウンド側は盛土となっており、削平は受けていない。また、この盛土は少量の鴻臚館関連の遺物を含むものの、基盤の風化頁岩粘土をほとんど含んでおらず、グラウンド等の削平による盛土でないことは明らかである。なお、この盛土は内野スタンド基礎、グラウンド基礎撤去後の埋め戻し土として使用されている。

また、球場付属施設である6基の照明塔、2基の浄化槽については建設時に深い基礎工事がおこなわれており、地下に多大な影響を与えている。しかし、内野席側照明塔、浄化槽は基盤の岩盤に至っておらず、古代もしくは近世の埋立土の中に収まっている。

グラウンドは人工芝、アスファルトを除去した後、碎石基礎までを除去している。立会調査の際、この直下に昭和20年6月19日の福岡大空襲による戦災焦土層が広く観察された。プライマリーな状態でこの焦土層の存在することは、戦後基盤の削平を受けていないことの証明となるものと考えられる。

試掘調査での土層観察を総合するとFig. 13のようになる。すなわち、戦災焦土層が残っているのはグラウンド中央部分と外野ライト側スタンド部分である。昭和62年の調査でも左中間スタンドで焦土層が確認されている。レフト側のスタンドの一部は、Fig. 11で看取されるように球場建設時に福岡城縄張りを拡張造成したものであり、この部分を除く外野スタンドは球場建設時の地形改変の影響を受けていない。一方グラウンド外野席側は戦災焦土層が残っておらず球場建設時に削平を受けていることが明らかである。

また、スタンド盛り土は、多量の鴻臚館関係の遺物を含む風化頁岩礫、粘土であり、グラウンド外野席側の削平土を利用したものであることがうかがえる。

これらのことから、平和台野球場建設時の大規模な造成は、球場全面に及ぶものではないことが明らかになった。当初の予想より幾分安堵できるものであった。

しかし、大規模ではないものの、球場関係排水管、連隊関係埋設管・建物基礎が浅く広く分布しており、ある程度の影響を受けているといわざるを得ない。

なお、戦災焦土層の検出レベルは、グラウンド部分で標高7.5m前後、スタンド部分で8.4mと0.9m程の高低差が見られるが、この地点は福岡城内の道路と大音屋敷との境界部分で（Fig. 11）、屋敷石垣と道路との高低差（Fig. 12）がこれに当たるものであろう。屋敷跡地のグラウンドにかかる一段高い部分が削られ、外野スタンド盛り土とされたものであろう。

試掘トレンチでは、グラウンド基礎、戦災焦土層を除去した直下に、埋立整地土、又は岩盤が広がり、そのレベルはほぼ7.3～7.9mである。検出した岩盤はFig. 14のような分布を示しており、グラウンド中央と外野スタンドに西から東へ延びる小さな尾根があり、それに挟まれた谷の部分及び内野グラウンド北側部分は基盤由来の頁岩風化礫・風化粘土によって埋められている。この面で柱穴など遺構が検出



Fig.11 福岡城と平和台野球場の位置関係図

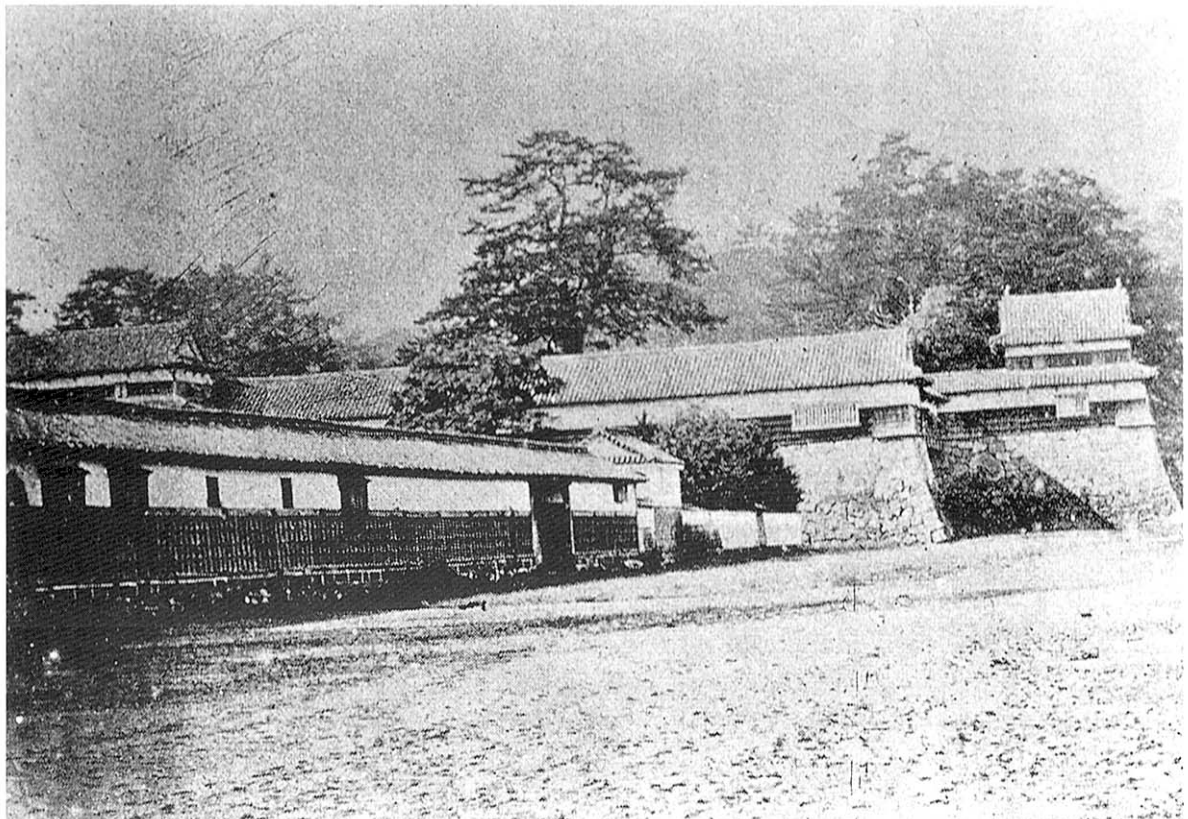


Fig.12 大音屋敷長屋門と革櫓(右奥)、炭櫓(左端) (明治時代初め)

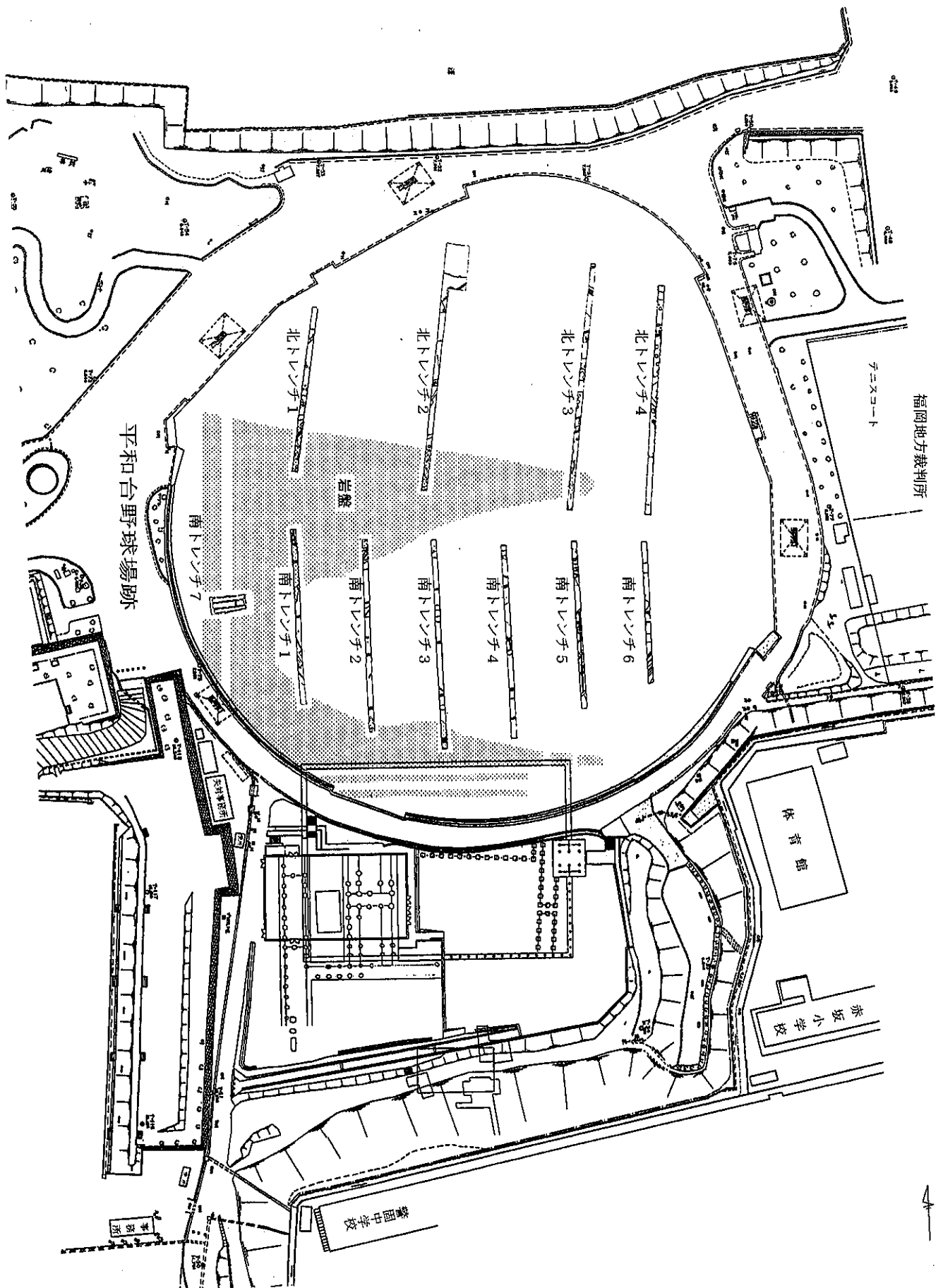


Fig.14 平和台野球場跡地内岩盤検出状況図 (1/750)

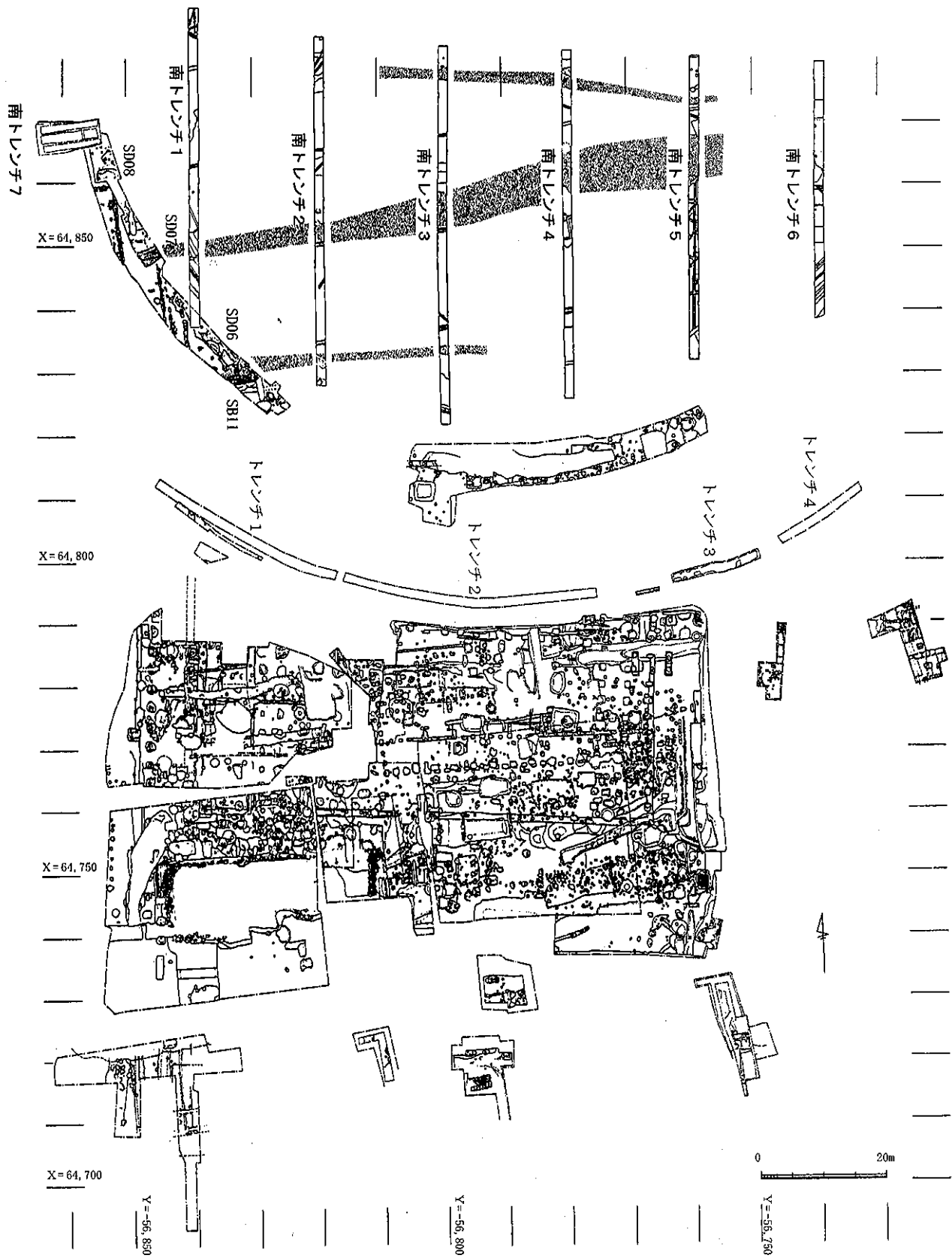


Fig.15 既往調査区遺構と瓦を多く含む埋土との位置関係 (1/900)

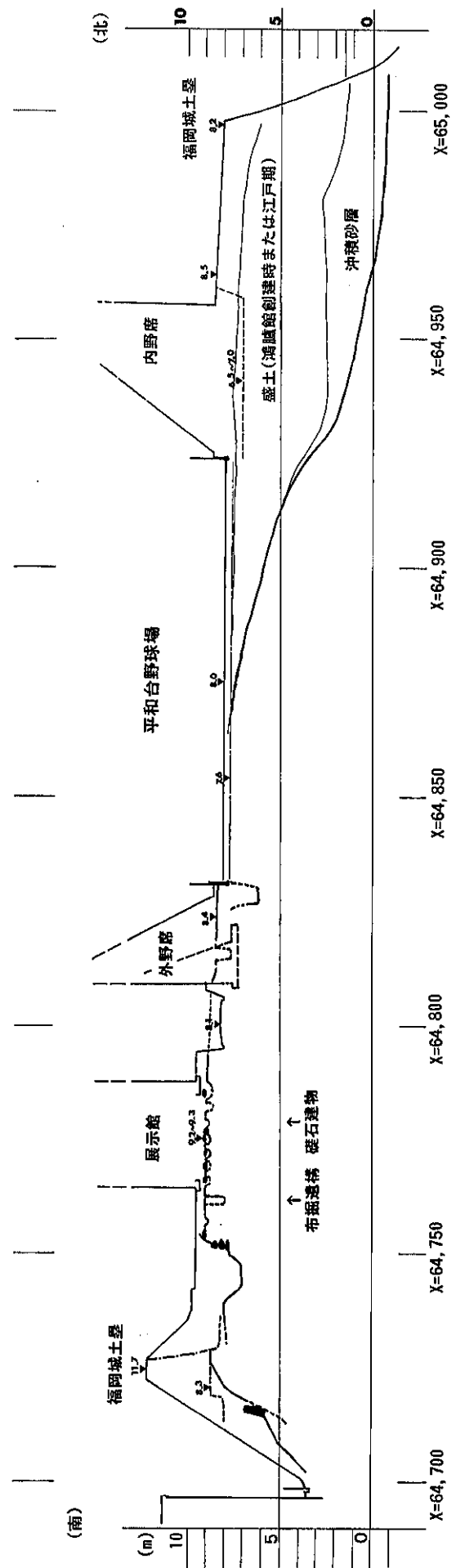
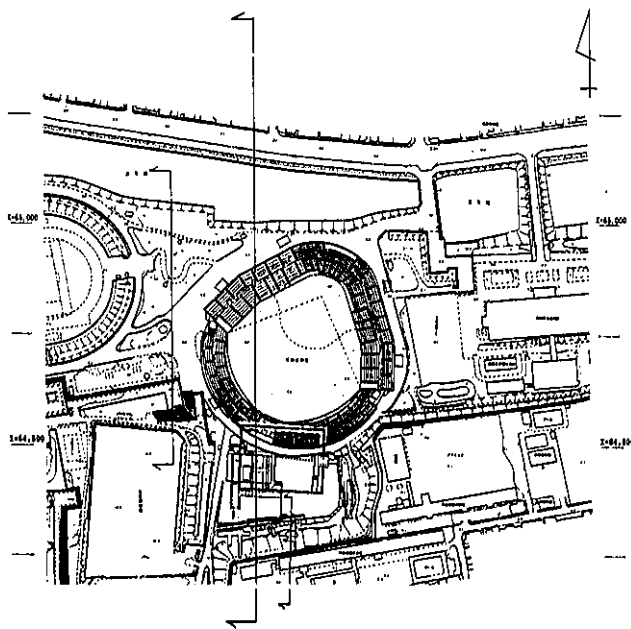


Fig.16 鴻臚館および平和台野球場跡地南北断面図

されているが、それぞれの所属時期と相互の関連性については現段階では明確にはできない。また、谷の埋立造成の時期についても明確でない。埋立土が福岡城築城時以前のものであれば、鴻臚館の遺構が球場北半まで広がっている可能性は残されている。

しかし、グラウンド部分の遺構検出面レベルは、Fig. 16のように平成4年度までの調査で確認された、現鴻臚館跡展示館付近の遺構レベル（標高9.2m）、昭和62年の調査で確認された外野スタンドの遺構レベル（8.4m）よりさらに低く、第三期礎石建物の礎石列の延長部分を検出できる可能性は低いが、掘込地業等の深い遺構は残っているものと思われる。

また、試掘調査では、Fig. 15に示すように古代瓦を多量に含む風化粘土が、南トレンチ2～5までのトレンチを東西に横断する形で3条検出されている。現段階では溝か、段落ち際に堆積したものか明確でないが、最も南側の古代瓦を多量に含む風化粘土列が、昭和62年の調査で確認された基壇状の遺構SB11の北側に堆積していた瓦列に繋がるものと思われ、また中央の風化粘土列も、同じくSD07に繋がるものと思われる。昭和62年の調査での遺構検出面は8.4mのレベルであるが、溝などの遺構の最下レベルはグラウンド部遺構検出面より低いため、グラウンドでも続きが検出される可能性が強い。

ともあれ国指定史跡福岡城跡の遺構面までという限定された条件のなかで行った試掘であり、現時点での鴻臚館遺構の全面的な確認はできていないが、これまでの発掘調査で得られている知見に、立会調査、試掘調査で得た情報を加え、平成11年度以降の本格調査を実施することにより、その具体的な状況は明らかになるだろう。

図 版

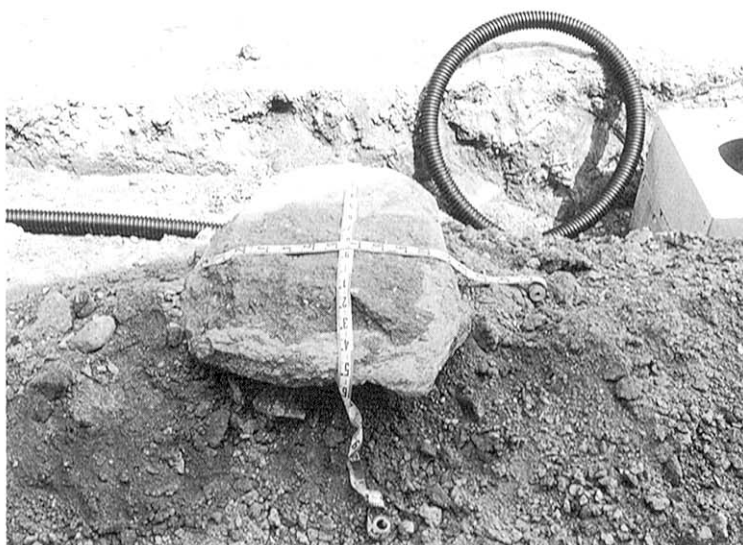
(PLATES)



(3) トレンチ3 全景（西から）



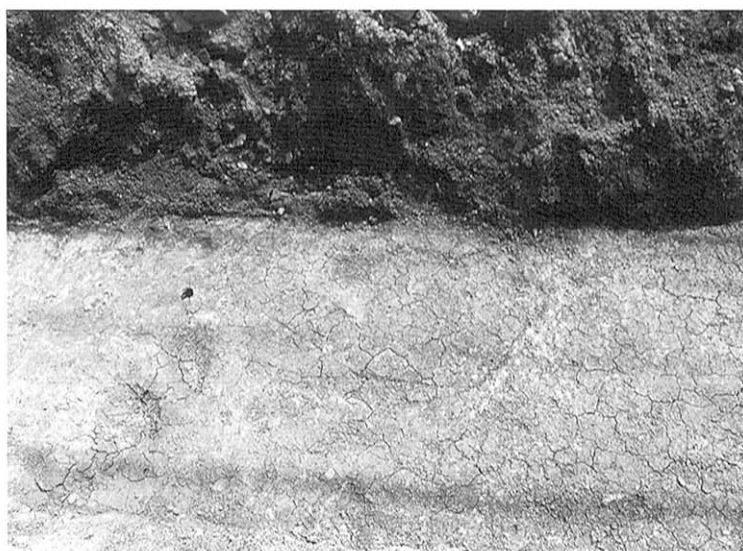
(1) 電気等切り替えにともなうトレンチ調査風景 トレンチ2（東から）



(2) トレンチ1、2間 礎石出土状況



(5) トレンチ9 浄化槽検出状況（北から）



(4) トレンチ3 柱穴検出状況（北から）



(1) 内野席撤去状況



(2) 内野スタンド盛土撤去状況



(3) 内野スタンド構造物撤去状況



(4) 内野スタンド地下構造物撤去状況



(5) スコアボード撤去状況



(6) 外野席撤去状況



(1) 外野フェンス撤去状況



(2) 外野席撤去後の状況



(3) グランド基礎撤去状況



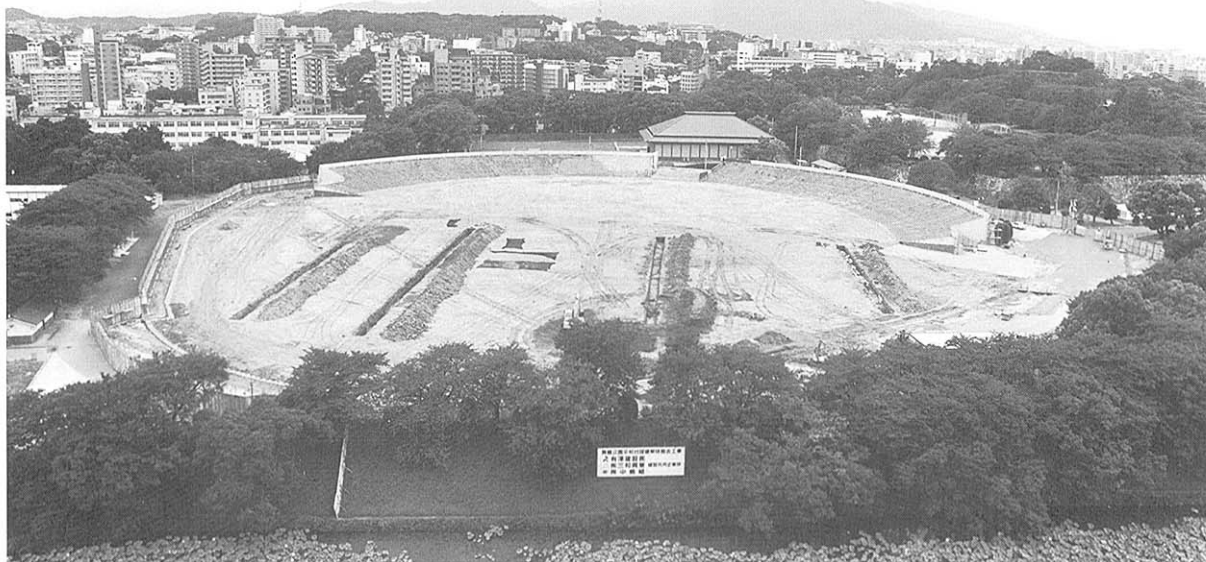
(4) グランド地下埋設管撤去状況



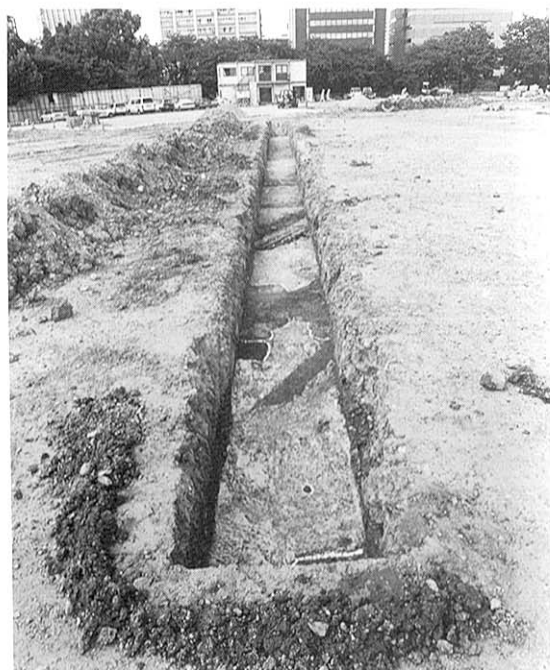
(5) 照明塔基礎撤去状況



(6) 浄化槽撤去状況



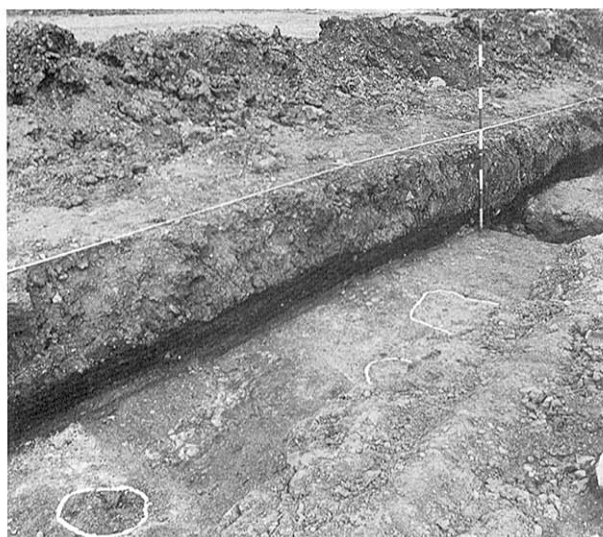
(1) 平和台野球場跡第一期試掘調査全景（北から）



(2) 北トレンチ 1 全景（南から）



(3) 北トレンチ 2 全景（南から）



(4) 北トレンチ 2 土層断面（南東から）



(5) 北トレンチ 2 瓦溜まり（西から）



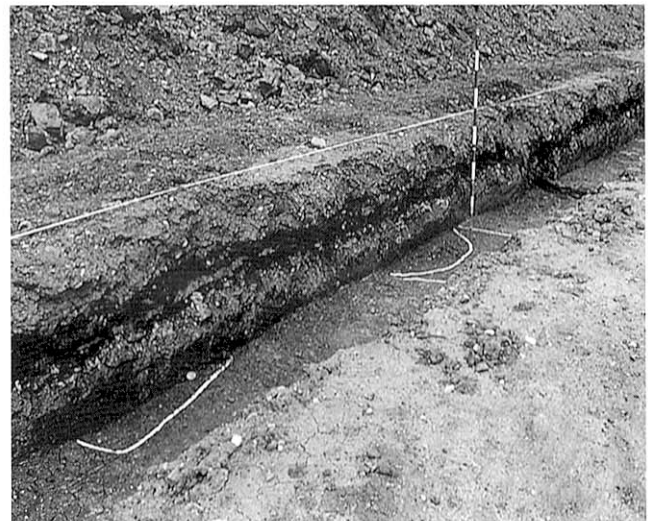
(1) 北トレンチ2 北端土層断面 (北から)



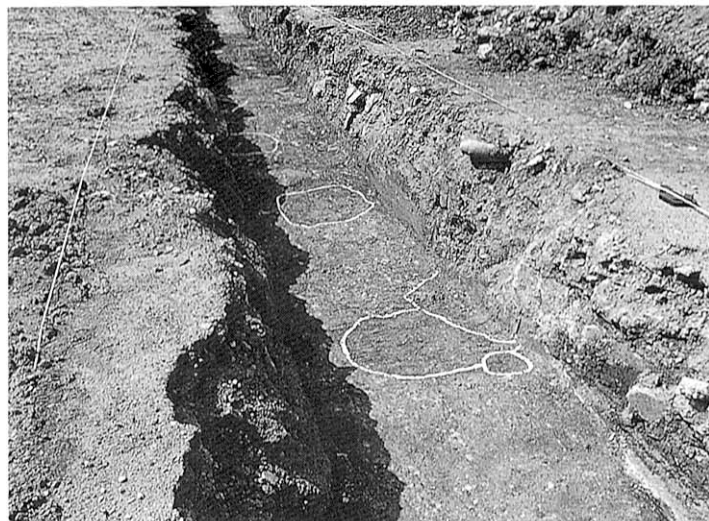
(2) 北トレンチ3 全景 (南から)



(4) 北トレンチ4 全景 (北から)



(3) 北トレンチ3 土層断面 (南東から)



(5) 北トレンチ4 柱穴検出状況 (北から)



(1) 平和台野球場撤去後仮整備状況遠景（北から）



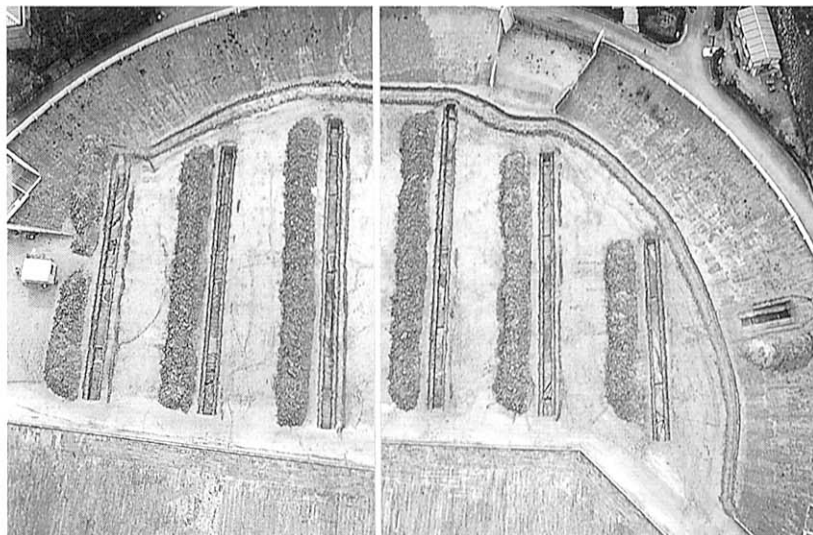
(2) 平和台野球場撤去後仮整備状況近景（北から）



(3) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景（東から）



(4) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景（北から）



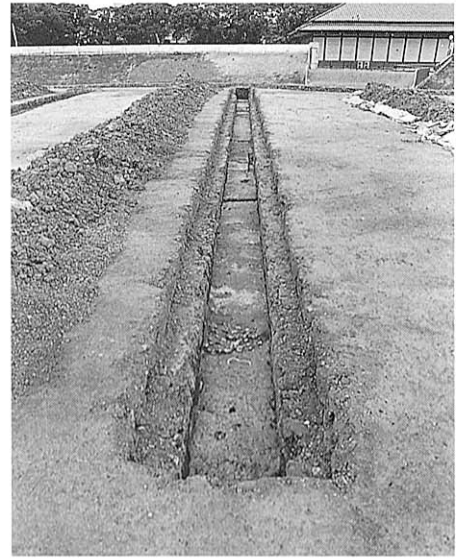
(5) 平和台野球場跡第二期試掘調査区全景（空中写真）



(1) 南トレンチ1 全景 (北から)



(2) 南トレンチ2 全景 (北から)



(3) 南トレンチ3 全景 (北から)



(4) 南トレンチ2 瓦出土状況 (東から)



(5) 南トレンチ2 岩盤検出状況 (北西から)



(6) 南トレンチ3 瓦出土状況 (東から)



(7) 南トレンチ3 瓦出土状況 (西から)



(1) 南トレンチ4 全景（北から）



(2) 南トレンチ4 瓦出土状況（南東から）



(3) 南トレンチ4 瓦出土状況（東から）



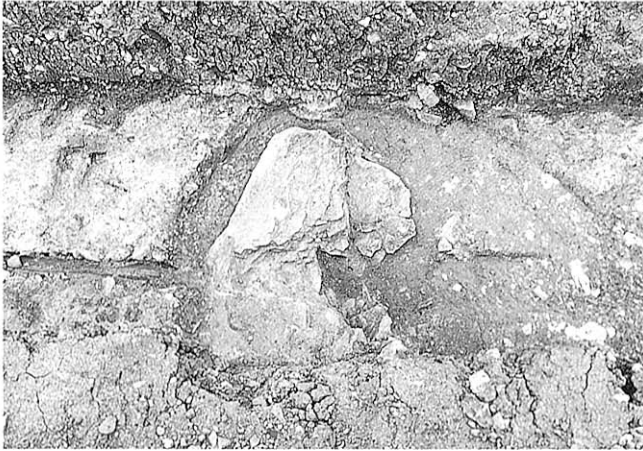
(4) 南トレンチ5 全景（北から）



(5) 南トレンチ5 瓦出土状況（東から）



(6) 南トレンチ5 埋土状況（東から）



(1) 南トレンチ5 礎石検出状況（東から）



(2) 南トレンチ6 全景（北から）



(3) 南トレンチ6 江戸時代溝検出状況（北東から）



(4) 南トレンチ6 江戸時代砂層堆積状況（東から）



(5) 南トレンチ6 連隊関係地下遺構（東から）



(6) 南トレンチ7 スタンド盛土状況（北から）

鴻臚館跡 10

— 平成10年度発掘調査概要報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第620集

発	行	福岡市教育委員会
		福岡市中央区天神一丁目8-1
		平成11年3月31日
印	刷	株式会社 ミドリ印刷
		福岡市博多区西月隈1丁目2番11号

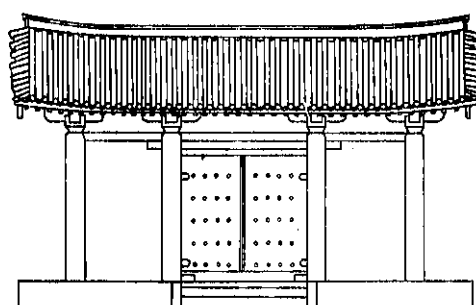
KŌROKAN

10

Excavation and Studies of

Kōrokan Ruins

in Fukuoka



March 1999

THE FUKUOKA CITY BOARD OF EDUCATION
JAPAN